

漁況海況予報事業（情報交換推進事業）

兼浜安信、本永文彦、久貝一成、喜屋武俊彦
金城 宏、金城清昭、海老沢明彦

1. 目的および内容

沿岸沖合漁業に関する漁況海況の調査研究及び資源調査の結果に基づいて予報を作成すること並びに漁況海況情報を収集し、当業者に通報することにより、漁業資源の合理的利用と操業の効率化を図り、漁業経営の安定に資することを目的とする。

2. 方法

(1) 情報の収録

① 海況情報

表面水温データは県下のマグロ船（19トン型）に依頼し、漁業無線局を通じ時刻、位置、水温のデータを得る。これらのデータを毎週月水金にセンターにテレファックスで送信する。

② 漁況情報

定置網、カジキ曳縄、トビウオ浮敷網、トビイカ釣、カツオー本釣、マグロはえ縄等の水揚状況について、関係漁協及び市場へ依頼し、毎月の船別、魚種別、銘柄別、水揚量及び入港隻数の情報を旬毎に報告を願い、これをとりまとめ「漁海況旬報」として水産関係者に広報する。情報収集先は定置網が国頭、読谷、知念、カジキ曳縄が与那国、糸満、トビウオ浮敷網が伊江、知念、糸満、久米島、八重山、トビイカ釣が知念、与那原、糸満、カツオー本釣が本部、伊良部、八重山の各漁協、マグロはえ縄が県漁連から収集している。

(2) 対象漁業種類

定置網、カジキ曳縄、トビウオ浮敷網、トビイカ釣、カツオー本釣、マグロはえ縄

(3) 広報方式

漁海況旬報は郵送によって周年報告する。

(4) 広報対象

各漁協及び漁業関係団体、水研、各県水試、主要市町村等

(5) 広報の内容

県下主要市場（漁協）における定置網による漁獲物、カジキ曳縄による漁獲物、トビイカ、カツオ、マグロ類、カジキ類の水揚量、入港隻数及び沖縄近海の表面水温分布

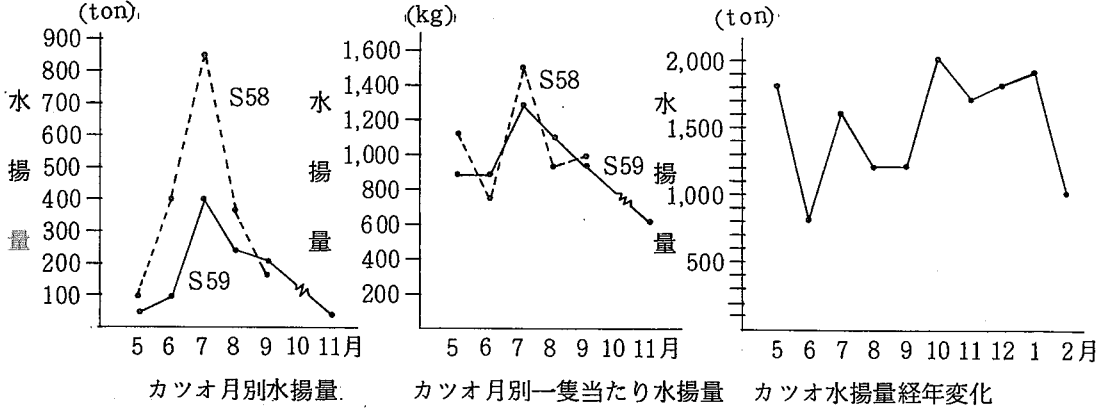
3. 昭和59年度漁況の経過について

1. カツオー本釣

沖縄周辺海域における昭和59年度のカツオー本釣の水揚状況は、主要三漁協（本部、伊良部、八重山）の出漁延べ隻数 924隻、総水揚量 1,004 トンで対前年比は延べ隻数、水揚量とも54%で大巾に減少した。また一隻当たり水揚量は 1,086 kgでほぼ前年並（S58年 1,078 kg）であった。銘柄別に

みると全漁期間で大判（6～9kg）34%、中判（3～6kg）21%、小判（1.2～3kg）30%、極小（1.2kg以下）6%、大小混り1%、その他シビ等8%であった。

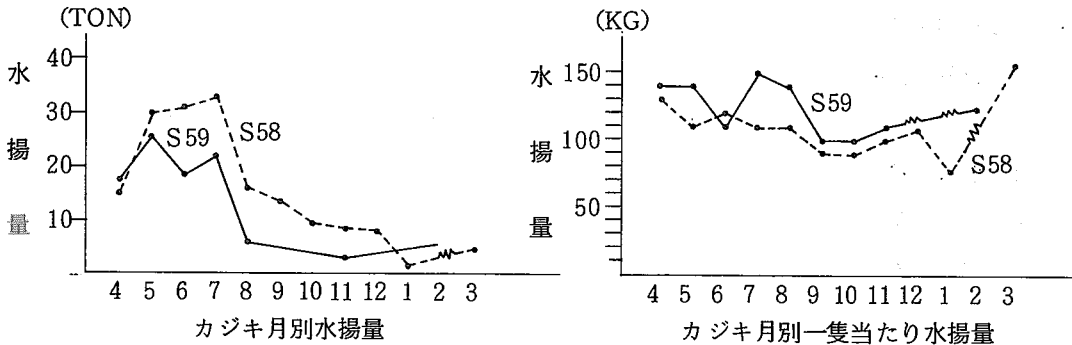
カツオー本釣（本部、伊良部、八重山）
(ton), (kg)



2. カジキ曳縄

糸満漁協におけるカジキ曳縄漁（4月～9月）は延べ137隻水揚し、総水揚量は26.0トンで一隻当り水揚量は190kgであった。対前年比は延べ隻数70%、水揚量102%、一隻当り水揚量は145%であった。与那国漁協は漁期間中（4月～2月）延べ768隻水揚し、総水揚量は86.4トンで隻当り水揚量は113kgであった。対前年比は延べ隻数60%、水揚量59%、一隻当り水揚量は106%であった。

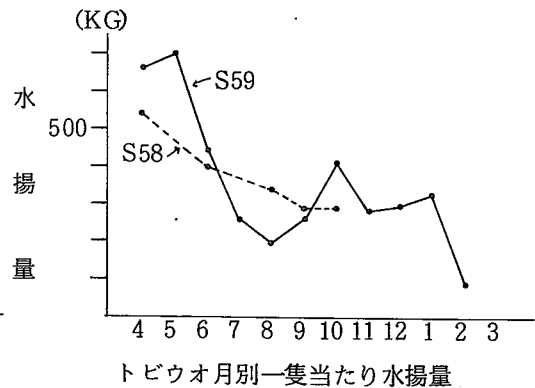
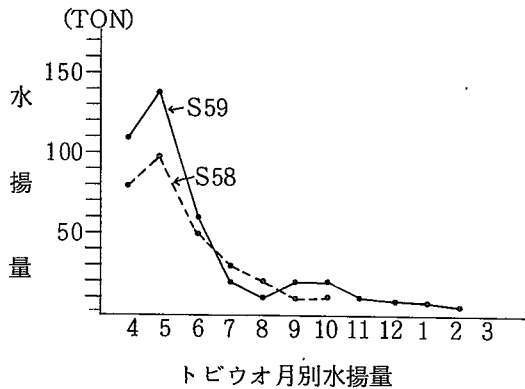
カジキ曳縄（与那国、糸満）
(TON), (KG)



3. トビウオ浮敷網

トビウオの主要水揚3漁協（伊江、糸満、八重山）の延べ水揚隻数は841隻で総水揚量398.9トンで一隻当り水揚量は474kgであった。対前年比は延べ隻数125%、水揚量121%、一隻当り水揚量は126%で前年より良かった。

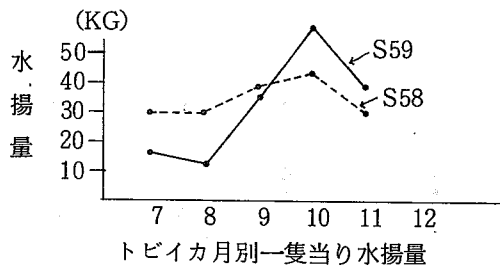
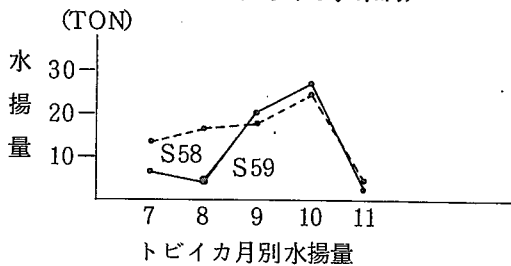
トビウオ浮敷網 (伊江、糸満、八重山)



4. トビイカ釣

トビイカの主要水揚3漁協(知念、与那原、糸満)の7月から11月までの延べ隻数は1,513隻で、総水揚量は55.1トンであった。一隻当たり水揚量は36kgであった。対前年比はのべ隻数71%、水揚量75%、一隻当たり水揚量は103%であった。

トビイカ釣 (知念、与那原、糸満)

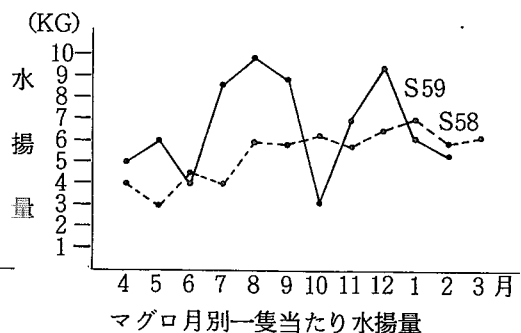
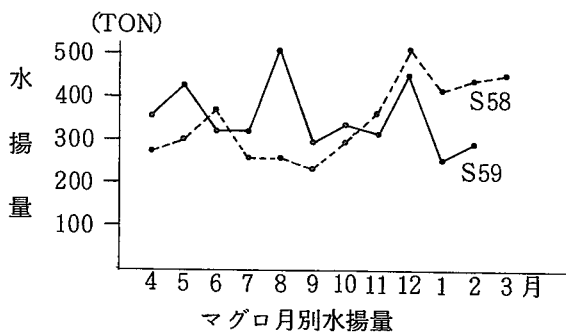


5. マグロはえ縄

県漁連における4月から2月までのマグロはえ縄船の水揚のべ隻数は652隻で総水揚量は3,849トンで対前年比は105%であった。一日一隻当たり水揚量は5.9トンであった。

魚種別割合はキハダ36%、メバチ28%、クロカワ26%、メカジキ5%、ビンナガ5%、その他(マカジキ、バショウカジキ等)2%であった。前年に比較してキハダが減少し、メバチ、クロカワ、カジキ等が増加した。

マグロはえ縄 (県漁連)



漁海況旬報

(第 81 報)
(昭和 59 年度 第 1 報)
(昭和 59 年 4 月 1 日 ~ 4 月 10 日)

沖縄県水産試験場

〒 901-03 沖縄県糸満市西崎町 1 丁目
TEL 09699-4-3593
テレファックス 09699 4 8703

seas 況

沖縄島近海の水産試験場は、23～25°C 台で前旬とあまり変化はない。
前年同期期に比べてやや低め、平年に比べてやや高めとなっている。
県下各地の沿岸水温は、那覇 21.5°C、喜古島 23.6°C (平年並 + 1.3°C)、石垣島 24.0°C (同 + 1.2°C)、与那国島 25.1°C (同 + 1.3°C) となっている。
また、沖縄本島の潮位高では、21.0°C で前旬に比べて 0.4 高い。

海象

今旬も引き続き北東ないし南東の風があり、海上風警報や波浪注意警報があった。

魚況

定置網に入網した魚種別割合は、カブツメ (メアジ) 61%、カツオ 15%、ガーラ (アジ類) 14%、マゴロ 8%、ナガイユ (ツムブリ) 2% であった。

カジキ漁

与那国近海のカジキ漁は延べ 33 隻出漁し、総水揚げ量は、4,219 ㎏ (37 尾) で一妻当たり水揚げは、128 ㎏ であった。これは前旬に比べて 11% 減りで前年同期期に比べて 13% 減であった。今旬のカブツメの魚体の範囲は、40～241 ㎏ であった。シロカワワカジキは 75～288 ㎏ であった。

糸満地先では延べ 2 隻出漁し、総水揚げ量は、288 ㎏ で一妻当たりの水揚げ量は、134 ㎏ であった。前旬及び前年同期とも出漁船はなかった。

トビウオ浮網

今旬より、伊江、糸満、八重山漁場においてトビウオ漁が始まった。
伊江島地先におけるトビウオ漁は 6 (3 尾/㎏) 主体で

1,316 ㎏ の水揚げで 1 日 1 妻当たり水揚げ量は、120 ㎏ であった。前年同期期に比べて 27% 増であった。
糸満地先では、大小漁りで 1,159 ㎏ の水揚げで、1 日 1 妻当たり水揚げ量は、386 ㎏ であった。前年同期は、漁がなかった。
八重山におけるトビウオ漁は波間間島及び海域の 3～5 ㎏ の範囲内で大主体で 16,235 ㎏ の水揚げで、1 日 1 妻当たり水揚げ量は、1,120 ㎏ であった。前年同期に比べて 5% 減であった。

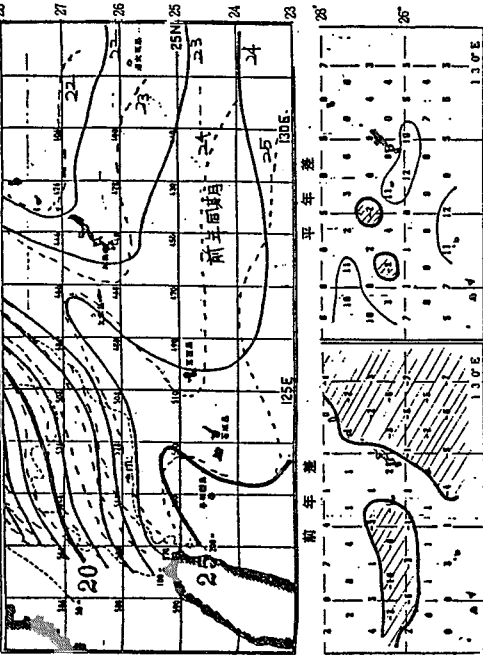
マゴロはえ縄

糸満地先で水揚げされたマゴロは、延べ 28 隻で 146.9 トンの水揚げで一妻当たり水揚げ量は 5.8 トンであった。

前旬と比べて 21% 減で、前年同期と比べて 23% 増であった。

種別割合は、メバチ 35%、キハダ 30%、クロカワ カジキ 21%、メカジキ 8%、その他 2% であった。

糸満水産 (昭和 59 年 4 月 1 日 ~ 10 日) ----- 西日本海況旬報 (気象庁海洋気象台) より引用



兼瀬別、漁船別水揚げ状況 (昭和 59 年 4 月 1 日 ~ 4 月 10 日)

定置網	所獲魚種	漁獲量 (kg)	漁獲頭数	魚種別水揚げ量 (kg)	原船名	原船型
伊江	カツオ	28	ナガイユ	3	メアジ	112
伊江	カツオ	11	メバチ	25	マゴロ	15
伊江	カツオ	2	メバチ	288		
伊江	カツオ	33	メバチ	615	クロカワ	3,604
伊江	カツオ	11	メバチ	536 (中)	0 (小)	0
伊江	カツオ	3	メバチ	1,045	メアジ	114
伊江	カツオ	14	メバチ	16,235		
伊江	カツオ	14	メバチ	16,235		
伊江	カツオ	26	メバチ	30,512	メアジ	1,923
伊江	カツオ	26	メバチ	45,010	メバチ	3,657
伊江	カツオ	26	メバチ	45,010	メバチ	3,657
伊江	カツオ	26	メバチ	45,010	メバチ	3,657
伊江	カツオ	26	メバチ	45,010	メバチ	3,657

漁海況旬報

(第 82 報)

(昭和 59 年度 第 2 報)

(昭和 59 年 4 月 11 日 ~ 4 月 20 日)

沖縄県水産試験場

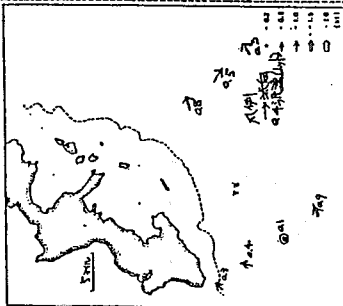
〒901-03 沖縄県糸満市西崎町1丁目
TEL 09899-4-3593
テレファックス 09899 4 8703

S海況

沖縄島近海の前海面水温は、23~25℃で前旬に比べて0.5℃上昇した。

前年同期に比べてやや低目、平年に比べてやや高めとなっている。当水域の観測船くろしおが4/20に実施した沖縄本島沿岸の海面流況観測では、沖縄本島とその南東15マイルの間では、0.1~0.9ノットの北東流がみられた。

(図参照)



県下各地の沿岸水温は、那覇 21.9℃、宮古島 23.2℃ (平年差 -0.1℃)、石垣島 24.0℃ (同 +0.2℃)、与那国島 24.6℃ (土 0℃) となっている。沖縄本島の南東部では、23.3℃で前旬より1.4℃昇温した。

海象

北東ないし南東の風で全般に浪注意報があった。

S漁況

定置網 県前地区の定置網漁が始まった。魚獲組成はガン(メアジ) 28kg、67%、カツオ 14.1kg、33%であった。

知念漁船は、ガーラ 12.5kg、6.5%、ガン 109.3kg、57%、カツオ 19.7kg、10%、ナガイユ 50kg、26%であった。

カジキ漁場

与那国地区のカジキ漁場は、今旬はクロカワカツキのみ漁獲された。延べ27隻計 3,849kg (30隻)の水揚げで1隻1日当たり 143kg となった。

魚体概観は、45~47kg であった。前旬と比較すると 112% 昨年同旬とは、110% とわずかに増加している。

糸満地区は、延べ6隻 1,015.5kgの水揚げで1隻1日当たり 169kg となった。前旬と比較すると、126% と増加した。昨年同旬は、1尾水揚げされただけであった。

トビウオ浮網漁

伊江島地区では、延べ33隻計 3,670kgの水揚げで1隻1日当たり 111kg であった。組成は大 (3隻/1kg) 85% とダツ15% となった。前旬と比較すると 92%、昨年同旬とは 75% と減少している。

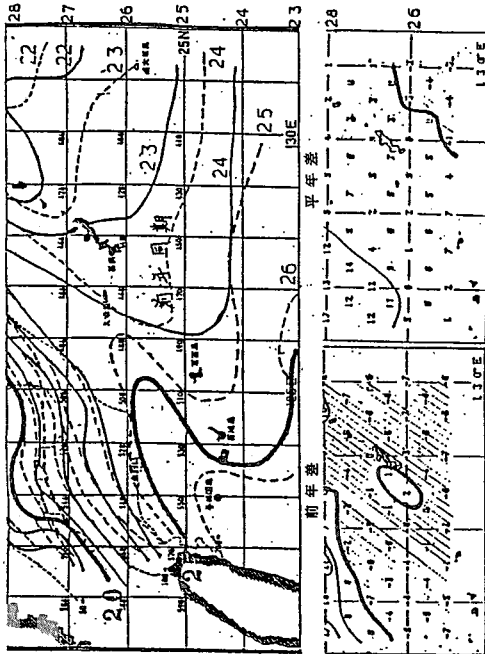
水無地区も大が主体で、延べ5隻計 1,851kgの水揚げで1隻1日当たり 370kgの水揚げであった。前旬との比較では、96% と減少しているが、昨年同旬との比較では、397% と約4倍の水揚げとなった。

八重山地区では、延べ25隻計 36,503kgの水揚げで、1隻1日当たり 1,460kg となった。前旬と比較すると 130%、昨年同旬とは、111% と増加している。魚体組成は大 96%、小 4% とやはり大が主体であった。

マグロはえ縄

県漁連に水揚げしたマグロはえ縄船は、延べ2隻計 117.8kg となり1隻1日当たり 59.9kg であった。魚獲組成は、クロカワカジキ 30%、キハダ 43%、メバチ 17%、メカジキ 5%、その他 5% であった。

海面水温 (昭和59年4月11日~20日) 西日本漁況旬報 (長崎海洋気象台) より引用



業種別、漁協水揚げ状況 (昭和59年4月11日~4月20日)

業種	漁協	定置網	知念	糸満	伊江	知念	糸満	八重山	トビウオ	マグロ	その他	前旬	前年
定置網	知念	109	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
知念	知念	20	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
糸満	糸満	6	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
伊江	伊江	33	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
知念	知念	5	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
糸満	糸満	1,851	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
八重山	八重山	25	36,503	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
トビウオ	トビウオ	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
マグロ	マグロ	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
その他	その他	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
合計	合計	20	117,656	34,906	1,851	36,503	0	0	0	0	0	0	0

漁海況旬報

(第 85 期)
 (昭和 59 年度 第 5 期)
 (昭和 59 年 5 月 11 日 ~ 5 月 20 日)

S 海況

沖縄島近海の海面水温は25~26℃台で前旬より1~2℃程昇進した。
 前年同月に比べて沖縄本島周辺海域はやや高め、先高海域は、やや低めとなっている。
 また、平年に比べても同様な傾向がある。
 県下各地の沿岸水温は、新島23.8℃、宮古島25.5℃(平年差-0.5℃)、石垣島25.0℃(同-1.2℃)、与那国島26.4℃(同+0.1℃)となっている。

S 漁況

定置網
 国領地区の定置網に入網した魚種組成は、ガーラ(アジ類)69%、ガツン16%、カツオ16%であった。知念地先はガツン(メアジ)45%、カツオ(スマ)44%であった。

カジキ漁網

与那国地区のカジキ漁網は延べ44隻、計5,794㌔の水揚げで1日1隻当たり132㌔であった。前旬と比較すると92%とわずかに減少し、昨年同旬とは118%とやや増加した。魚体範囲は、クロカワカジキ30~381㌔、シロカワカジキ99~338㌔であった。
 糸満地区は延べ11隻、計1,327㌔の水揚げで1隻1日当たり121㌔であった。前旬と比較すると89%と昨年同旬とは88%とやや減少している。

トビオ浮網

伊江島地区では、延べ20隻、計5,604㌔の水揚げで1隻1日当たり280㌔であった。組成は大(3尾/1㌔)61%、中小(4~8尾/1㌔)27%、ダツ11%、その他1%であった。
 糸満地区も大主体で延べ15隻、計7,264㌔の水揚げで1隻1日当たり484㌔の水揚げであった。前旬と比較すると77%、

沖縄県水産試験場

〒901-03 沖縄県糸満市西崎町1丁目
 TEL 09899-4-3593
 テレファックス 09899-4-8703

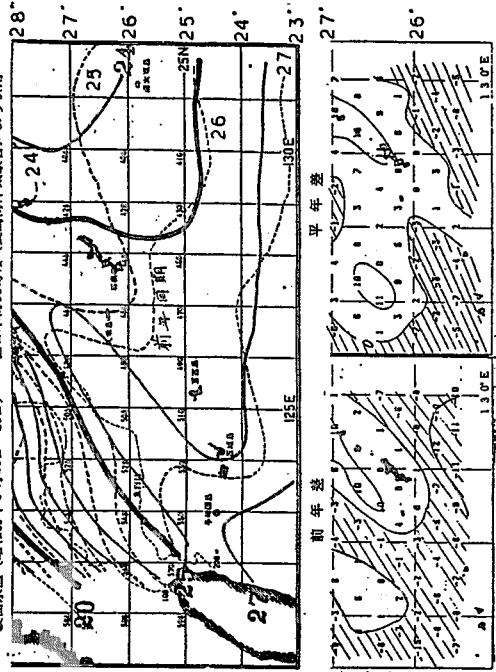
昨年同旬とは、80%と減少している。
 八重山地区では、延べ25隻、計39,866㌔の水揚げで1隻1日当たり1,595㌔であった。前旬と比較すると113%とやや増加している。魚体組成は、大主体であった。
 カツオ一本釣

本部漁協のカツオ漁は延べ、9隻出漁し大主体に6,086㌔の水揚げで1隻1日当たり676㌔の水揚げであった。前旬と比較すると83%と昨年同旬とは、50%と約半分は減少している。

マグロはえ縄

県漁連に水揚げしたマグロはえ縄組は延べ17隻、計14.5トンドで1隻1日当たり6.1トンドであった。
 前旬と比較すると120%と昨年同旬とは、223%と約2倍強に増加した。魚種別組成はキハダ47%、クロカワカジキ27%、メバチ17%、メカツキ6%。その他3%であった。

表面水温 (昭和59年5月11日~20日) ……西日本海況旬報 (琉球海洋気象台) より引用



業種別、漁獲水揚げ状況 (昭和59年5月11日~5月20日)

業種	所獲魚種	延べ水揚げ隻数	水揚げ量 (kg)	漁場	魚種別水揚げ量 (kg)	前旬	回数	
定置網	カツオ	1	1,595	知念地先	カツオ 159	ナガイユ 1	メアジ 158	-
定置網	カツオ	1	1,595	知念地先	ガーラ 266	マグロ 0	-	-
定置網	カツオ	11	1,327	糸満地先	クロカワ 1,327	-	14	2,998
定置網	カツオ	44	5,794	伊江島	シロカワ 1,177	クロカワ 4,617	44	6,351
定置網	カツオ	20	5,603	伊江島	トビオ浮網 3,436	トビオ浮網 571	14	10,356
定置網	カツオ	15	7,264	糸満地先	トビオ浮網 6,443	ダツ 821	9	5,998
定置網	カツオ	25	39,866	糸満地先	トビオ浮網 39,866	-	18	25,305
定置網	カツオ	9	6,086	糸満地先	トビオ浮網 6,086	-	21	17,100
定置網	カツオ	17	114,452	糸満地先	トビオ浮網 114,452	-	25	140,372

漁海況旬報

(第 85 報)
 (昭和 59 年度 第 6 報)
 (昭和 59 年 5 月 21 日 ~ 5 月 31 日)

S 海況

沖縄島近海の表面水温は、25~26℃台で前旬とあまり変わりない。前年同期に比べて沖縄本島周辺海域及び宮古、八重山海域において0.1~1.7℃程度目下経過している。また、平年に比べて沖縄本島周辺海域は0.2~0.8℃程度高目、宮古、八重山海域においては、0.4~1.0℃程度高目である。県下各地の沿岸水温は、那覇23.9℃、宮古25.3℃(平年差-1.0℃)、石垣25.3℃(同-1.3℃)、与那国島26.4℃(同-0.4℃)となっている。

S 漁況

定置網
 国頭地区の定置網に入網した魚種別は、カツオ(スマ)87隻、ガーラ(アジ類)11隻、ナガイユ(ツムブリ)2隻であった。
 知念地区は、ガン(メアジ)65隻、カツオ(スマ)28隻、ガーラ7隻であった。

カジキ漁

与那国地区は都合により情報がなれなかった。
 糸満地区は、延べ19隻、計3,803㎏の水揚げで1隻1日当たり200㎏であった。前旬と比較すると、165%と増加し、昨年同旬とは、134%とやや増加している。

沖縄県水産試験場

〒901-03 沖縄県浦添市西崎町1丁目
 TEL 09899-4-3593
 テレファックス 09899 4 8703

トビウオ浮網

伊江島地区では、延べ42隻、計9,455㎏の水揚げで1隻1日当たり225㎏であった。前旬と比較すると80%とやや減少している。

昨年同旬とは、67%とかなり減少している。魚種別は、大37隻、小33隻、中18隻、その他14隻であった。

糸満地区は延べ12隻、計8,865㎏の水揚げで1隻1日当たり715㎏の水揚げであった。前旬と比較すると148%と増加している。昨年同旬は水揚げがなかった。魚体は大半が87%であった。

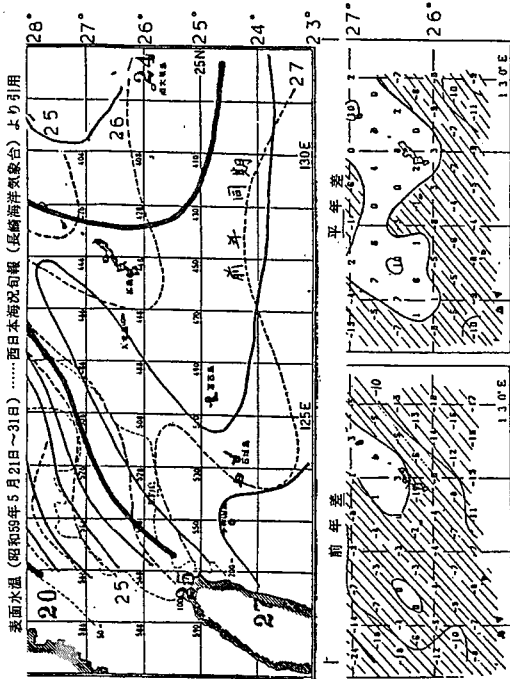
八重山地区では、延べ19隻、計30,184㎏の水揚げで1隻1日当たり1,589㎏であった。前旬と比較するとほぼ同量で昨年同旬とは163%で増加している。魚体は大半である。

カツオ一本釣

本部漁協のカツオ漁は延べ9隻出漁し、計9,839㎏の水揚げで1隻1日当たり、1,093㎏の水揚げであった。前旬と比較すると162%と増加し、昨年同旬とは、110%とやや増加している。魚体は小半39%、中判19%、大判16%、その他27%であった。

マグロはえ縄

味濃漁に水揚げしたマグロはえ縄船は延べ29隻、計1822トンで1隻1日当たり5.2トンであった。前旬と比較すると78%と減少し、昨年同旬とは192%と約2倍に増加した。魚種別組成は、キハダ49%、クロカワカジキ23%、メバチ18%、メカジキ6%、その他4%であった。



表層水温 (昭和59年5月21日~31日) 西日本海況旬報 (琉球海洋気象台) より引用

魚種	所属漁協	延べ水揚げ隻数 (隻)	魚種別水揚げ量 (kg)	前 回	
				量 (kg)	隻
定置網	糸満	—	カツオ 624 ガーラ 87 マグロ 0	—	—
現カツ	糸満	19	クロカワ 3,803	11	1,327
現カツ	与那国	42	カツオ 13 メアジ 147	44	5,794
浮ト	知念	—	トビウオ 3,508 メアジ 1,676 その他 20	20	5,603
敏ウ	糸満	12	糸満地先 8,351 ダツ 234	15	7,284
網一本	八重山	19	30,184	25	39,886
トビウ	知念	—	—	—	—
イカ釣	糸満	—	—	—	—
カ	本部	9	伊豆ノエ 1,887 メアジ 3,771 その他 2,900 スマ 250	9	6,086
一本	池間	—	—	—	—
一本	八重山	—	—	—	—
はマ	糸満	28	フィリッ 35,776 クロカワ 9,617 メバチ 27,266 その他 1,301	17	114,452

漁海況旬報

(第 87 号)

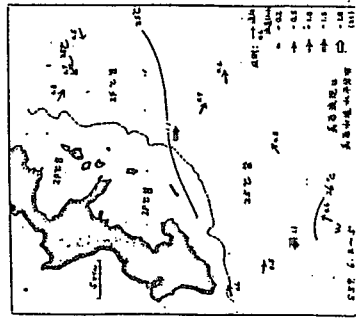
(昭和 59 年底 第 7 号)

(昭和 59 年 6 月 1 日 ~ 6 月 10 日)

S 海況

沖縄近海の海面水温は、25~27℃で前旬とあまり変化はない。前年同様に比べてやや高め、平年に比べてやや高めとなっている。

なお、宮古、八重山島の北西側は、前年、平年よりもやや低目(0.1~0.5℃)となっている。当水温が、6月4日~5日に突進した沖縄本島沿岸の表面流観測では、首領武勇津港及び中城瀬川河口沖で0.5~1.1ノットの東~北東流がみられた。金武武勇津沖合では、0.3~0.7ノットの弱い流れで流況は不ぞろいであった。



県下各地の沿岸水温は、那覇24.4℃(平年差-0.6℃)宮古25.6℃(同-0.8℃)、石垣島27.0℃(同-0.1℃)と新島28.6℃(同-0.5℃)となっている。

S 漁況

今旬は、各漁村でハーリーが催されたこともあって全般的に出漁船は少なかった。

定置網

田原地区の定置網に入網した魚種組成は、カツオ(ヌマ)13%、ガーラ(アジ類)2%、ガツン(メアジ)85%であった。知念地 は、カツオ(ヌマ)13%、ガーラ(アジ類)37%、ガツン(メアジ)43%、マグロ6%、ナガイユ1%であった。

沖縄県水産試験場

T 901-03 沖縄県糸満市西崎町 1丁目
TEL 09899-4-3593
テレファックス 09899 4 8703

カジキ漁獲

与那国地区は延べ34隻・3,392尾(尾数は37尾(クロカワ35尾、シロカワ2尾))で1隻当たり100尾弱の水揚げであった。クロカワは大199尾、小43尾、平均90尾、シロカワは大116尾、小80尾、平均113尾であった。前旬の89尾の漁獲量であった。昨年同旬とは70%と減少している。前旬は報告が遅れて前報に記載されていないのでここでは(54隻、6,124尾、57尾、クロカワ54尾、5,871尾)(小283尾・小38尾(平均108尾)シロカワ3隻283尾(大83尾、小17尾(平均84尾))

糸満地区は、延べ13隻2,251尾、13尾(クロカワ)1隻(173尾)の水揚げであった。クロカワは大310尾、小87尾、平均173尾であった。前旬の87隻昨年同旬とは125%でやや増加している。

トビウオ浮動網

伊江島地区では、延べ32隻8,960尾で1隻当たり280尾の水揚げであった。魚種組成は、大39%、小14%、ダツ11%であった。1日の最高漁獲量は、1,185尾(最低155尾)であった。漁獲量は、前旬の96%、昨年同旬の104%であった。

糸満地区は延べ8隻1,377尾1隻平均172尾、前旬の24%の漁獲量、昨年同旬の45%の漁獲量であった。1日の最高漁獲量は、335尾、最低8尾であった。魚種組成は、大中主体であった。八重山地区では延べ8隻15,910尾、1隻平均1,989尾、前旬の125%、昨年同旬の83%の漁獲量であった。旧最高漁獲量は、3,580尾(最低は、970尾)であった。魚体は大中主体であった。

カツオ一本釣

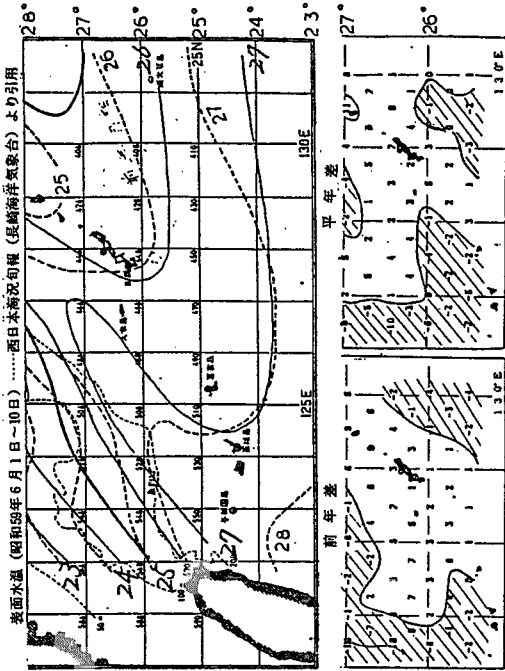
本部漁協のカツオ漁は、延べ18隻28,447尾で平均1,469尾であった。魚体は大型2%、中利53%、小利15%で漁獲量は、前旬の134%、昨年同旬の193%で増加している。

マグロはえ縄

馬場浦に水揚げしたマグロはえ縄漁船は、延べ29隻87トンで一隻平均3.4トンであった。前旬の65%、昨年同旬の74%と減少している。魚種組成は、キハダ49%、クロカワ25%、メバチ18%、メカツキ6%、その他2%であった。

その他の情報

トビウオの出漁船はなく試験船「四雨丸」が5月末にアイサメ調査中、善魚灯をつけて漁したが、トビウオの捕獲はみられなかった。



魚種別、漁場別水揚げ状況(昭和59年6月1日~6月10日)

魚種	所産漁協	庄へ水揚げ隻数	水揚げ量(kg)	漁場	魚種別水揚げ量(kg)	前旬受量(kg)	前回受量(kg)
定置網	糸満	-	-	田知念	カツオ164 ナガイユ5 メアジ614	-	-
伊江	知念	13	2,251	知念	ガーラ395 マグロ62	-	-
伊江	糸満	34	3,392	糸満地区	クロカワ2,251	19	3,803
伊江	与那国	32	3,960	宮古	シロカワ226	54	6,124
伊江	伊江	32	8,960	伊江	トビウオ(大)3,000(中)3,197(小)1,262(ダツ)1,101	42	9,455
伊江	知念	-	-	-	-	-	-
伊江	久米島	8	1,377	糸満地区	トビウオ1,243	12	8,585
伊江	八重山	8	15,910	馬場浦	トビウオ15,910	19	30,184
伊江	知念	-	-	-	-	-	-
伊江	与那国	-	-	-	-	-	-
伊江	糸満	10	28,447	伊江	カツオ(大)7,044 (中)15,226 (小)4,177	9	9,839
伊江	伊江	-	-	-	-	-	-
伊江	池間	-	-	-	-	-	-
伊江	八重山	-	-	-	-	-	-
伊江	糸満	29	97,342	知念	クロカワ24,137	403	162,241
伊江	伊江	29	97,342	知念	メカツキ4,481	5,592	5,592
伊江	伊江	29	97,342	知念	メバチ47,405	17,820	17,820
伊江	伊江	29	97,342	知念	ヒシメウ1,181	583	583

漁海況旬報

(第88報)

(昭和59年度第8報)

(昭和59年6月11日～6月20日)

沖縄県水産試験場

〒901-03 沖縄県糸満市西崎町1丁目
TEL 09899-4-3593
テレファックス 09899 4 8703

S海況

沖縄近海の表面水温は、27～28℃台で前旬より1℃程昇温した。前年同期に比べて沖縄本島周辺海域は0.2～1.0℃程高目、宮古、八重山海域においては、0.1～0.3℃程低目になっている。

県下各地の沿岸水温は、那覇25.8℃、宮古島27.6℃(平年差+0.1℃)、石垣島27.2℃(同-0.5℃)、与那国島27.7℃(同+0.1℃)となっている。

S漁況

定置網

函頭漁協の定置網では、ガーラ7.7%、ガツン(メアジ)42.4%、カツオ41.6%、マグロ7.2%、ナガユ1.1%であった。知念漁協では、ガーラ32.6%、ガツン0.2%、カツオ53.6%、マグロ5.8%、ナガユ7.6%であった。

カジキ漁網

与那国地区では、延べ62隻出漁し、クロカワ5,862kg(70尾)、シロカワ87kg(1尾)で一隻当たり約90kgの水揚げであった。クロカワは最大257kg、最小35kgの大きさであった。今旬の水揚げ量は前旬の173%、昨年同旬の181%と大幅に増えたが、一隻当たりの水揚げでは前旬の96%、昨年同旬の83%とわずかに減少している。

糸満地区では、延べ17隻出漁し、クロカワ2,335kg、その他142kgで一隻当たり137kgの水揚げとなった。今旬の水揚げ量は前旬の104%、昨年同旬の315%となった。一隻当たりの水揚げでは、前旬の79%と減少している。

トビウオ浮置網

伊江島地区では、延べ39隻出漁し、8,030kgの水揚げで、一隻当たり223kgとなった。魚種組成は、トビウオ89%、うち45%、中48%、小7%、ダツ11%であった。今旬の水揚げ量は、前旬の90%、昨年同旬の89%となった。

糸満地区では、延べ14隻出漁し、3,060kgの水揚げで、一隻当たり219kgの水揚げとなった。魚種組成は、トビウオ87%、ダツ12%、その他11%となった。今旬の水揚げ量は、前旬の222%、昨年同旬の236%と大幅に増加したが、一隻当たりの水揚げでは、延べ10隻出漁し、15,230kgの水揚げで、八重山地区では、延べ10隻出漁し、15,230kgの水揚げで、一隻当たり1,523kgの水揚げとなった。今旬の水揚げは前旬の96%となった。(昨年同旬は水揚げなし) 一隻当たりの水揚げ量は、前旬の77%と減少した。

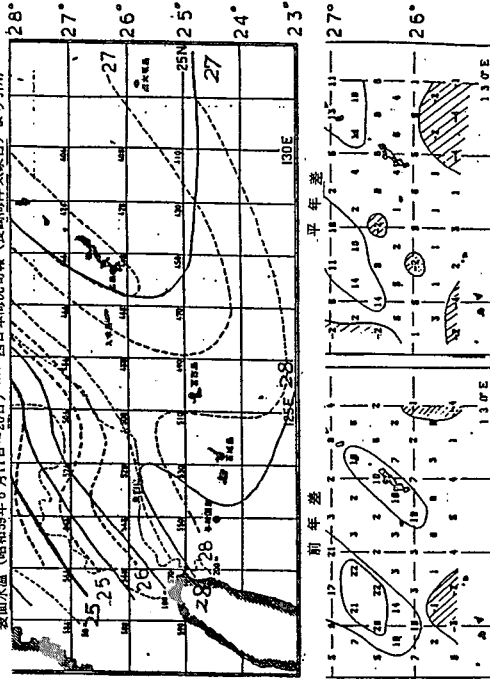
カツオ一本釣

本郷漁協のカツオ漁は、延べ22隻出漁し、23,040kgの水揚げで、一隻当たり1,320kgとなった。魚体は、大判44%、中判4%、小判55%で今旬の水揚げ量は、前旬の110%、昨年同旬の425%と増加した。一隻当たりでは、前旬の90%、昨年同旬の174%となった。

マグロ一本釣

県漁連に水揚げしたマグロは、魚種別は延べ22隻計115トン、一隻当たり3.6トンであった。今旬の水揚げ量は、前旬の118%、昨年同旬の87%となった。魚種組成は、キハダ41%、メバチ24%、クロカワ25%、メカジキ7%、その他3%と変わった。

表面水温 (昭和59年6月11日～20日) ……西日本漁況旬報(基幹海洋気象台)より引用



業種別、漁場別水揚げ状況 (昭和59年6月11日～6月20日)

業種	所産漁場	定置網	浮網	一本釣	魚種	魚量(kg)	水揚げ量(kg)	前年差	要(kg)
カツオ	知念	447	ナガユ	44	メアジ	176			
カツオ	知念	200	マグロ	60					
シロカワ	糸満	17	2,478	糸満地区	クロカワ	2,335	その他	142	13
シロカワ	与那国	62	5,949	西島	シロカワ	87	クロカワ	5,862	34
シロカワ	伊江	36	8,030	糸満地区	トビウオ	(内)3,212	(中)3,432	(小)498	(ダツ)888
トビウオ	知念	—	—	—	—	—	—	—	—
トビウオ	糸満	14	3,060	糸満地区	トビウオ	2,660	ダツ	371	その他
トビウオ	久米島	—	—	—	—	—	—	—	8
トビウオ	八重山	10	15,230	糸満地区	トビウオ	15,230			8
トビウオ	知念	—	—	—	—	—	—	—	15,910
トビウオ	与那国	—	—	—	—	—	—	—	—
トビウオ	糸満	—	—	—	—	—	—	—	—
トビウオ	伊江	22	28,040	伊江島	トビウオ	23,484	メバチ	470	18
トビウオ	伊江	—	—	—	—	—	—	—	15,913
トビウオ	池田	—	—	—	—	—	—	—	26,447
トビウオ	八重山	—	—	—	—	—	—	—	—
トビウオ	糸満	32	114,835	糸満地区	クロカワ	23,484	シロカワ	430	—
トビウオ	糸満	—	—	—	—	—	—	—	430
トビウオ	糸満	—	—	—	—	—	—	—	791
トビウオ	糸満	—	—	—	—	—	—	—	27,905
トビウオ	糸満	—	—	—	—	—	—	—	1,116
トビウオ	糸満	—	—	—	—	—	—	—	1,332

漁海況旬報

(第70報)

(昭和59年度第10報)

(昭和59年7月1日～7月10日)

S海況

沖縄近海の表面水温は、28～29℃台で前旬に比べて1～2℃昇温した。前年同期に比べてやや高まり、平年に比べてもやや高めとなっている。当水試の観測値は7月2日～3日に実施した沖縄本島沿岸の表面水温観測では、沖縄本島とその南東



S漁況

定置網
知念・國頭地区における回遊性魚類の水揚げは、國頭地区が7月6日以降急上昇したためか、前旬の45%と低調である。魚種組成は知念地区でカツオ23%、ナガイコ12%、ガンズ52%、ガーラ12%、マグロ1%、國頭地区では、ガンのみの漁獲であった。

カジキ漁獲

与那国地区のカジキ漁獲は、延べ39隻、計3,919kgで前旬比191%であったが、前年同期の36%の漁獲量で、前年に比べて低調であった。魚体組成は、クロカワ98～259kg(47尾)、シロカワ95kg(1尾)であった。赤嶺地区では延べ6隻、計1,087kgで前旬比89%、前年比48%の漁獲量

沖縄県水産試験場

〒901-03 沖縄県糸満市延徳町1丁目
TEL 09899-4-3593
テレファックス 09899 4 8703

で、与那国地区同様低調であった。魚体組成は、クロカワ38%～131kg(14尾)であった。

トビウオ浮網漁

伊江島地区では、延べ43艘、10,672kgで1日1艘あたり漁獲量は、248kgであった。魚種組成は、トビウオ95% (大16%、中38%、小9%)、ダツ5%であった。前旬の120%、前年同期の280%の漁獲量で低調であった。赤嶺地区では、延べ9艘2,276kgで1日1艘あたり253kgであった。魚種組成は、トビウオ91%、ダツ9%であった。前旬の160%の漁獲量であった。

トビイカ釣

トビイカ釣は、今旬に入って各地で断発的に漁が始まった。知念では、延べ11隻で133kg、赤嶺では延べ24隻で264.6kgの漁獲量で、まだ本格的な漁期に入っていない。

カツオ一本釣

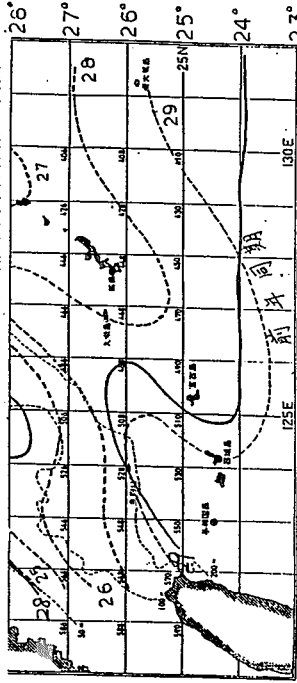
本隊では、延べ24隻が出漁し351で、1隻当たりの漁獲量は、1.46tであった。前旬に比べて4.5倍、前年同期の13.5倍と好調であったが、小判のみの漁獲であった。伊江島では、延べ48隻が出漁し、141tで、1隻当たりの漁獲は、296kgであった。前旬の88%、前年同期の14%の漁獲量で低調であった。魚種組成は、大判5.4%、中判28.4%、小判22.1%、ピラ2.7%、シビ特14.7%、シビ中3.7%、シビ小21.6%、その他1.4%で、シビが42%を占めていた。

八重山では、延べ12隻が出漁し、25.8tで一隻当たりの漁獲量は、2.1tであった。前年同期に比べると漁獲量が少ないこともあって、47%の漁獲量にとどまっている。1隻当たりの漁獲量は、前年同期比125%であった。

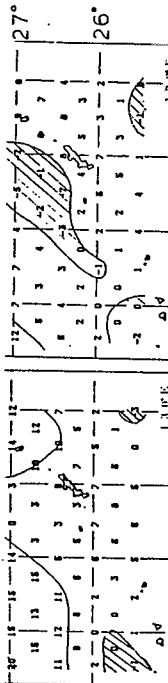
マグロはえ網

県漁連に水揚げしたマグロはえ網船は、延べ10隻で計92.7t、1.1隻当たり9.3トンドであった。ほぼ前年並の水揚げ量、前年同期109%の量であった。魚種組成は、クロカワ36.8%、オカヅキ5%、キョブ5.9%、メバチ27.1%で、前年同期に比べて、メバチの水揚げ量が3倍に増加していた。

表面水温 (昭和59年7月1日～10日) ……西日本気象台 (長崎海洋気象台) より引用



前年差



寒別別、漁獲別水揚げ状況 (昭和59年7月1日～7月10日)

産地	漁種	漁獲量 (kg)	漁獲別水揚げ量 (kg)	漁獲別水揚げ量 (kg)	前年差 (%)	
赤嶺	カツオ	192	ナガイコ	99	メツジ	446
	ガーラ	101	ワグロ	10	—	—
伊江	カツオ	1,087	赤嶺	1,087	5	1,234
	シロカワ	95	クロカワ	3,824	21	2,047
赤嶺	カツオ	5,165	トビウオ	5,165	29	8,883
	トビウオ	2,080	ダツ	196	8	1,400
赤嶺	カツオ	192	ナガイコ	99	メツジ	446
	ガーラ	101	ワグロ	10	—	—
伊江	カツオ	1,087	赤嶺	1,087	5	1,234
	シロカワ	95	クロカワ	3,824	21	2,047
赤嶺	カツオ	5,165	トビウオ	5,165	29	8,883
	トビウオ	2,080	ダツ	196	8	1,400
赤嶺	カツオ	192	ナガイコ	99	メツジ	446
	ガーラ	101	ワグロ	10	—	—
伊江	カツオ	1,087	赤嶺	1,087	5	1,234
	シロカワ	95	クロカワ	3,824	21	2,047
赤嶺	カツオ	5,165	トビウオ	5,165	29	8,883
	トビウオ	2,080	ダツ	196	8	1,400
赤嶺	カツオ	192	ナガイコ	99	メツジ	446
	ガーラ	101	ワグロ	10	—	—
伊江	カツオ	1,087	赤嶺	1,087	5	1,234
	シロカワ	95	クロカワ	3,824	21	2,047
赤嶺	カツオ	5,165	トビウオ	5,165	29	8,883
	トビウオ	2,080	ダツ	196	8	1,400
赤嶺	カツオ	192	ナガイコ	99	メツジ	446
	ガーラ	101	ワグロ	10	—	—
伊江	カツオ	1,087	赤嶺	1,087	5	1,234
	シロカワ	95	クロカワ	3,824	21	2,047
赤嶺	カツオ	5,165	トビウオ	5,165	29	8,883
	トビウオ	2,080	ダツ	196	8	1,400
赤嶺	カツオ	192	ナガイコ	99	メツジ	446
	ガーラ	101	ワグロ	10	—	—
伊江	カツオ	1,087	赤嶺	1,087	5	1,234
	シロカワ	95	クロカワ	3,824	21	2,047
赤嶺	カツオ	5,165	トビウオ	5,165	29	8,883
	トビウオ	2,080	ダツ	196	8	1,400
赤嶺	カツオ	192	ナガイコ	99	メツジ	446
	ガーラ	101	ワグロ	10	—	—
伊江	カツオ	1,087	赤嶺	1,087	5	1,234
	シロカワ	95	クロカワ	3,824	21	2,047
赤嶺	カツオ	5,165	トビウオ	5,165	29	8,883
	トビウオ	2,080	ダツ	196	8	1,400
赤嶺	カツオ	192	ナガイコ	99	メツジ	446
	ガーラ	101	ワグロ	10	—	—
伊江	カツオ	1,087	赤嶺	1,087	5	1,234
	シロカワ	95	クロカワ	3,824	21	2,047
赤嶺	カツオ	5,165	トビウオ	5,165	29	8,883
	トビウオ	2,080	ダツ	196	8	1,400
赤嶺	カツオ	192	ナガイコ	99	メツジ	446
	ガーラ	101	ワグロ	10	—	—
伊江	カツオ	1,087	赤嶺	1,087	5	1,234
	シロカワ	95	クロカワ	3,824	21	2,047
赤嶺	カツオ	5,165	トビウオ	5,165	29	8,883
	トビウオ	2,080	ダツ	196	8	1,400

漁海況旬報

(第 71 報)
 (昭和 59 年度第 11 報)
 (昭和 59 年 7 月 11 日 ~ 7 月 20 日)

沖縄県水産試験場

〒 901-03 沖縄県糸満市西堤町 1 丁目
 TEL 09899-4-3593
 テレファックス 09899 4 8703

S 海況

沖縄県近海海面水温は、29℃で前向とほぼ同じである。前年同期に比べて 0.2 ~ 0.9℃高く、平年に比べて殆んど差がない。
 県下各地の沿岸水温は、那覇 28.0℃、吉古島 29.9℃ (平年差 +0.8℃)、石垣島 28.6℃ (同 -0.6℃)、与那国島 29.1℃ (同 +0.5℃) となっている。

S 漁況

定置網
 国領地区の定置網に入網した回遊性魚類の魚種組成はカツオ 85 名、メアジ 9 名、アジ 9 名であった。知念地区の魚種組成は、ナガユエ (ツジメブリ) 95 名、カツオ 2 名、ガーラ (アジ類) 3 名であった。
 2 地区合計では、1,647 名の水揚げで、前向比 194%、前年同期の 87% であった。魚占魚種は、前向および前年同期はメアジであったが、今回はナガユエであった。また今回は、マグロが水揚げされなかった。

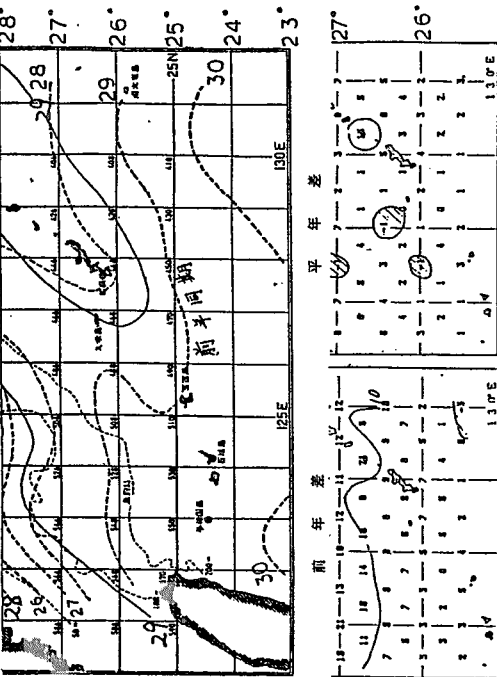
カジキ漁網

与那国地区のカジキ漁網は、延べ 71 隻、計 8,359 名 (79 尾) の水揚げで、1 日 1 隻当たり 118 名であった。魚体重量は、クロカワ 40 - 450 名、シロカワ 54 - 100 名であった。前向と比較すると、水揚げは 218 名で大巾に増加、魚体も割合に大きくなった。前年同期と比較すると隻数は 18 隻増加、水揚げは 400 名で増加、1 日 1 隻当たり水揚げ量は 104 名で同じであった。
 糸満地区は、延べ 5 隻、計 2,891 名の水揚げで、1 日 1 隻当たり 578 名であった。前向と比較すると、水揚げは 264 名で大巾に増加、1 日 1 隻当たり水揚げ量は 316 名で水揚げ量と同様に増加した。前年同期と比較すると、水揚げは 19 隻減少、水揚げ量は 109 名でほぼ同じ、1 日 1 隻当たり水揚げ量は 521 名で大巾に増加した。

トビオ浮網

伊江島地区では延べ 27 隻、6,975 名の水揚げで、1 日 1 隻当たり 259 名であった。前向と比較すると、延べ水揚げ数で

表面水温 (昭和 59 年 7 月 11 日 ~ 20 日) - 西日本海況旬報 (琉球海洋気象台) より引用



前年差

前年差

昭和 59 年 7 月 11 日 ~ 7 月 20 日

産地	所産	水揚げ量 (kg)	定置網	漁場	魚種	別水揚げ量 (kg)	新回
定置網	知念	1	1	知念地先	カツオ 388	ナガイユ 1,157	メアジ 24
定置網	知念	5	2,891	糸満地先	クロカワ 2,891		6
定置網	伊江	71	8,359	与那国	シロカワ 415	クロカワ 7,944	39
定置網	伊江	27	6,975	伊江島	メアジ 2,044	アジ 2,353	アジ 2,207
定置網	知念	1	1	知念			371
定置網	知念	1	1	知念			43
定置網	伊江	1	1	伊江島			9
定置網	伊江	4	39	伊江島			9
定置網	伊江	87	1,172	伊江島			24
定置網	伊江	22	23,542	伊江島			24
定置網	伊江	64	93,809	伊江島			48
定置網	伊江	26	53,704	伊江島			12
定置網	伊江	9	103,762	伊江島			10
定置網	伊江	9	103,762	伊江島			10
定置網	伊江	9	103,762	伊江島			10

漁海況旬報

(第 72 報)

(昭和 59 年度 第 12 報)

(昭和 59 年 7 月 21 日 ~ 7 月 31 日)

S 海 況

沖縄北海の表面水温は、20~30℃台で前旬より1℃程高
温した。

前年同期に比べて沖縄本島周辺海域は0.1~0.5℃程高
目、沖縄本島南部海域から古古海域縁辺域は、0.1~0.3
℃低目、宮古、八重山海域は、前年並となっている。

また、平年に比べて沖縄本島周辺海域は、0.1~1.0℃
高目、宮古、八重山海域は0.6~0.8℃程高目である。
県下各地の沿岸水温は、那覇28.0℃、宮古島30.3℃(平
年並+1.2℃)、石垣島28.7℃(同+0.6℃)、与那国島
29.2℃(同+0.6℃)となっている。

S 漁 況

定 置 網

国頭地区の産卵網に入網した回遊性存魚の組成は、カツ
オドリ、ガーラ(アジ類)13条、マグロ9条、ガンフ(メ
アジ)7条であった。知念地区の魚獲組成は、ガーラ(メ
アジ類)47条、マグロ25条、ナガイユ(ツムブリ)18条、カ
ツオ10条であった。2地区合計では、845kgの水揚げで前
旬比51%、前年同期の19%であった。

豊台漁獲は、前旬はナガイユ、前年同期はメアジであ
ったが、今旬はガーラ(アジ類)であった。

カ ジ キ 罟 網

与那国地区のカジキ罟網は、延べ19隻計2,441kg(21尾)
の水揚げで、1日1隻当たり136kgであった。魚体重量固
は、クロカワカジキ50~201kgであった。シロカワは水揚
けがなかった。

1日1隻当たり水揚げ量は、前旬と比較すると115%で
増加し、前年同期とは、132%で大幅に増加した。糸満
地区は、延べ7隻水揚げし、クロカワカジキ2,838kg(35
尾)の水揚げで1日1隻当たり405kgであった。魚体の重
量は、39~194kgであった。前旬と比較すると70%で減少
し、前年同期とは33%で大幅に増加した。

トビウオ浮網漁

伊江島地区では、のべ12隻計3,576kgの水揚げで1日1隻
当たり298kgであった。魚獲組成は、トビウオ92%、うち
大19%、中13%、小68%、ダツ8%であった。1日1隻当

沖 縄 県 水 産 試 験 場

〒 901-03 沖縄県糸満市西崎町1丁目
TEL 09899-4-3593
テレファックス 09899-4-8703

たり水揚げ量は、前旬と比較すると116%とやや増加し、昨
年同期とは、89%とやや減少した。

トビウオ釣

知念漁協で延べ8隻出漁し、86kgの水揚げであった。1
日1隻当たり水揚げ量は、11kgであった。前旬と比較すると
110%、前年同期とは、28%で大幅に減少している。

与那原漁協で延べ4隻出漁し44kgの水揚げであった。1
日1隻当たり水揚げ量は、11kgであった。前旬は水揚げがな
かった。昨年同期とは、28%で大幅に減少している。糸満漁協で
延べ114隻出漁し、1,982kgの水揚げであった。1日1隻
当たり水揚げ量は、17kgであった。前旬と比較すると131%
とやや増加し、前年同期とは、74%と減少している。

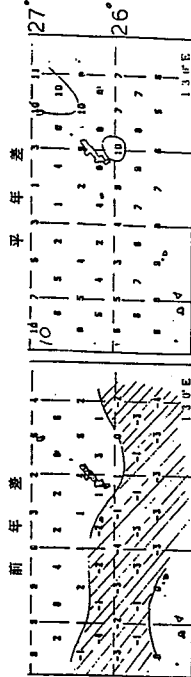
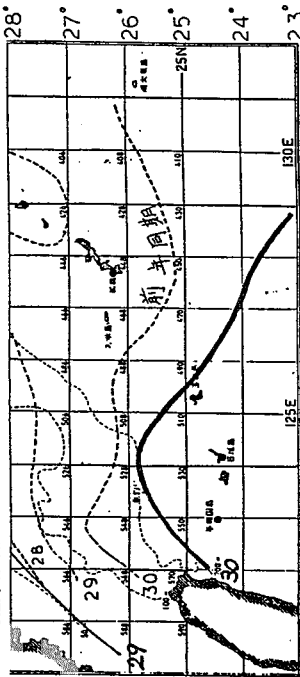
カツオ一本釣

本原漁協のカツオ船は、延べ23隻出漁し33,647kgの水揚
げで1日1隻当たり1,463kgであった。前旬と比較すると
137%でやや増加し、前年同期とも131%でやや増した。延べ
魚体は中判2%、小判98%であった。伊良部漁協は、延べ
44隻出漁し6,981kgの水揚げで1日1隻当たり1,587kg
であった。前旬と比較すると108%、前年同期と比較する
と120%でやや増加した。魚体組成は、カツオ99.7%、う
ち大判7%、中判2%、小判98%、ヒリ31%、シヒ0.8%
ナガイユ0.5%であった。八重山漁協は延べ11隻出漁し
29,957kgの水揚げで1日1隻当たり2,087kgであった。前
旬と比較すると28%でやや減少し、前年同期とはほぼ同じ
である。

マグロはえ縄

糸満速に水揚げしたマグロはえ縄船は延べ19隻で計117.7
トンで一隻当たり6.2トンであった。前旬と比較すると54
%と約半分に減少し、前年同期とは、107%ではほぼ同じであ
る。魚獲割合は、キハダ43%、クロカワカジキ27%、メバ
チ28%、メカツキ3%、その他1%であった。

表面水温 (昭和59年7月21日~31日) 西日本海況旬報 (長崎海洋気象台) より引用



漁獲別、漁船別水揚げ状況 (昭和 59 年 7 月 21 日 ~ 7 月 31 日)

所 属 漁 協	漁 船	漁 獲 別 水 揚 量 (kg)	前 年 同 期
定置網	知念	カツオ 187 ガーラ 338 マグロ 188	12
カツオ一本釣	伊良部	カツオ 0 クロカワ 2,441	5
マグロはえ縄	伊江	キハダ 607 トビウオ 303	27
トビウオ浮網	伊江	トビウオ 5,465	3
カツオ一本釣	伊江	カツオ 32,078 シロカワ 3,849 メカツキ 50,200 ベシキ 351	9
トビウオ浮網	伊江	トビウオ 3,576	226

魚海況旬報

(第73報)

(昭和59年8月13日)

(昭和59年8月1日～8月10日)

S海況

沖縄近海の表面水温は、29～30℃台で前旬とほぼ同じである。前年同期に比べて沖縄本島周辺海域は、0.1～0.2℃とやや低目である。沖縄本島と宮古間は、0.1～0.2℃とやや高目である。宮古、八重山海域は、0.1～0.5℃と東山海域とも0.6～1.1℃と高目である。

県下各地の沿岸水温は、那覇アターナなし、喜古島29.3℃(平年差+0.3℃)、石垣島29.8℃(同-0.3℃)、与那国島29.2℃(同-0.3℃)となっている。

S漁況

定置網
知念地区の定置網に入網した回遊性魚類の組成は、カツネ34尾、ツムブリ(ナガイユ)35尾、ヒラアジ類(ガーラ)23尾、マグロ7尾、メアジ(ガツツ)1尾であった。国頭地区は、網を引き上げた。カツネ、ツムブリ(ナガイユ)が、全旬に引き寄せ先魚種であった。

カジシイ

与那国地区のカジシイ成績は延べ9隻で、クロカワカジシイ90尾(9尾)の水揚げで、魚体重量圏は、最大173kg、最小55kg、平均101kgであった。

1日1隻当たりの水揚げは前旬と比較すると、74%で減少した。前年同期と比較して94%と削減している。糸満地区は、延べ4隻で、クロカワカジシイ68尾(9尾)の水揚げで、魚体は最大162kg、最小30kg、平均78kgであった。前旬の43%とかなり減少し、前年同期の125%で増加している。

トビウオ漁獲

伊江島地区では、延べ21隻、3,566kgの水揚げで、1日1隻当たり170kgであった。魚種組成は、トビウオ745尾、2,668kg(うち大9尾、中2.6尾、小88.4尾)ダツ21.6尾、770尾、その他(カツネ、サヨリ)3.9尾138kgであった。八重山地区、糸満地区は、終漁し漁漁に転換した。伊江地区の小型のトビウオは、サガウーと称し例年8月以降獲れ、11月頃まで獲られる。

沖縄県水産試験場

〒901-03 沖縄県糸満市西領町1丁目
TEL 09899-4-3593
テレファックス 09899 4 8703

トビウオ約

知念漁協では、延べ18隻出漁し239kgの水揚げであった。多い人で一晩20.5kg、少ない人で3.5kgで、平均して一日一隻当たり13.3kgと少ないが、前旬と比較すると123%とやや増加し、前年同期とは、32%と削減している。与那国漁協では、延べ1隻出漁し87kgの水揚げであった。多い人で一晩24.0kg、少ない人で9.5kgであった。平均一日一隻当たり17.4kgで、前旬とは15%で増加しているが、前年同期の31%と少ない。糸満漁協では、延べ4隻出漁し813kgの水揚げで一日一隻当たり15.0kg多い人で一晩27.0kg、少ない人で6.0kgであった。前旬の87%、前年同期の54%と減少している。トビウオ漁は全体的に、前年より漁獲量は悪いようですが、しかし前旬と比較すると、増加傾向にある。

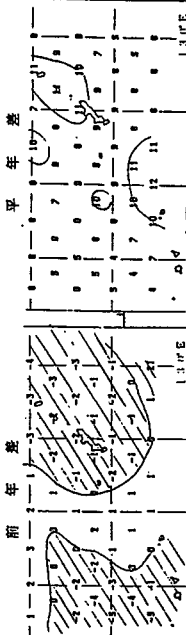
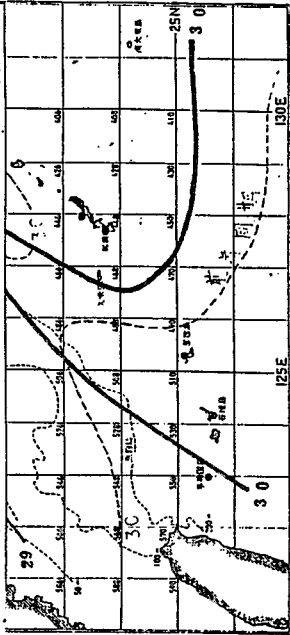
カツオ本釣

本島漁協では、延べ20隻出漁し24,928kgの水揚げで一日一隻当たり、1,241kgであった。前旬比85%、前年同期の125%であった。魚体は小判が94.2%、スマ5.8%であった。伊良部漁協は、延べ52隻出漁し34,871kgの水揚げで一日一隻当たり670kgであった。前旬比42%、前年同期比64%でかなり減少している。魚体組成は、カツオが4.8%、マグロ30.7%、その他4.5%であった。八重山漁協は、延べ36隻出漁し、64,562kgの水揚げで、一日一隻当たり1,783kgであった。前旬比で65%前年同期比で133%であった。

マグロはスル

糸満漁協に水揚げしたマグロはスルは、延べ22隻で、1,737トン、一隻当たり7.9トンであった。前旬比で127%、昨年比で154%で増加した。魚種割合は、キハダ35.4%、クロカワカジシイ32.5%、メバチ28.2%、メカツネ3.9%、その他2%であった。

表面水温 (昭和59年8月1日～10日) ……西日本海況旬報 (長崎海洋気象台) より引用



業種別、魚種別水揚げ状況 (昭和59年8月1日～8月10日)

業種	所産	漁獲量 (kg)	魚種別	水揚げ量 (kg)	回数
定置網	知念	159	カツネ	160	1
	先地	106	マグロ	34	1
集り	糸満	4	糸満漁協先	クロカワ	688
集り	与那国	9	伊良部	クロカワ	905
	伊江	21	伊江	クロカワ	0
	知念	3,566	トビウオ	228	170
	糸満	—	トビウオ	770	その他
	久米島	—	トビウオ	138	12
	八重山	—	トビウオ	—	—
	伊江	18	トビウオ	—	—
	糸満	7	トビウオ	—	—
	与那国	2,441	トビウオ	—	—
	伊江	3,579	トビウオ	—	—
	知念	—	トビウオ	—	—
	糸満	—	トビウオ	—	—
	久米島	—	トビウオ	—	—
	八重山	—	トビウオ	—	—
	伊江	8	トビウオ	—	—
	糸満	4	トビウオ	—	—
	与那国	114	トビウオ	—	—
	伊江	23	トビウオ	—	—
	知念	44	トビウオ	—	—
	糸満	—	トビウオ	—	—
	久米島	—	トビウオ	—	—
	八重山	—	トビウオ	—	—
	伊江	11	トビウオ	—	—
	糸満	—	トビウオ	—	—
	久米島	—	トビウオ	—	—
	八重山	—	トビウオ	—	—
	伊江	19	トビウオ	—	—

魚海況旬報

(第 74 報)

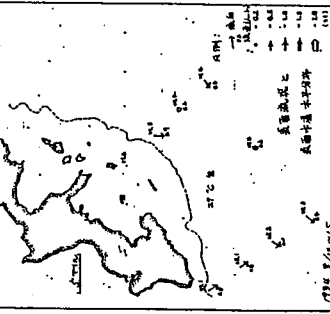
(昭和59年第 14 報)

(昭和59年 8 月 11 日～8 月 20 日)

S 海況

沖縄近海の表面水温は、28℃台で前旬より1℃程上昇した。前年、昨年よりもやや低目である。なお、宮古島、八重山の各島の周辺海嶺、及びその北西海域は、前年に比べてやや低目、平年に比べてやや高目である。当水俣が、8月14日～15日に実施した沖縄県南東部沿岸の基面流況観測では、喜望峯岬の2.5マイル沖で0.5ノットの高東流、その沖合部で1.0ノットの南西流、中城湾口沖では、0.6～0.7ノットの南流ないし、南西流がみられた。

県下各



地の沿岸水温は、那覇27.8℃(宮古島28.9℃(平年差±0.0℃)石垣島28.0℃(同-0.8℃)与那国島28.4℃(同-0.2℃)となっている。

S 漁況

今旬は、台風10号の影響で沖縄本島では、出漁が少な水揚げは低調であった。

定置網

知念、国頭地区における回遊性魚類の水揚げは、低調であった。国頭地区の漁獲組成はカツオ65%、ガツン59%、ガウラ35%、知念地区では、カツオ65%、メカジキ1%、ガウラ1%、マグロ4%であった。

カジキ共獲

与那国地区のカジキ共獲は、延べ7隻、計1,136kg

沖縄県水産試験場

〒901-03 沖縄県糸満市西崎町1丁目
TEL 09899-4-3593
テレファックス 09899 4 8703

尾)の水揚げであった。前旬に比べるとやや増加したが、前年同期の40%の水揚げにとどまった。糸満地区では、水揚げがなかった。

トビウオ浮網漁

伊江島地区では、延べ2隻が計353kg水揚げしたにとどまった。前旬の10%、前年同期の6%の水揚げに過ぎない。

トビイカ約

知念地区では延べ5隻、計80kg、与那原地区で延べ2隻、計42kg、糸満地区1隻、21kgの水揚げで、出漁隻数、水揚げとも少なかった。

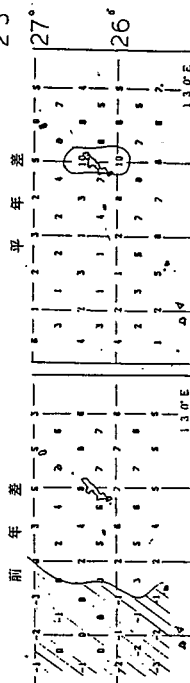
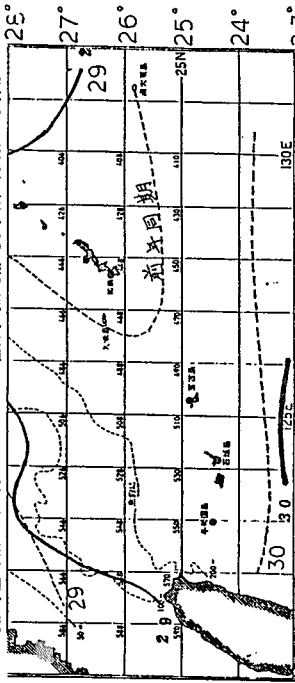
カツオ一本釣

本郡漁協では、延べ7隻、計8トンの水揚げ。魚体は小判が98%を占め、成りスマが2%であった。隻数、水揚げとも、前旬、前年同期と比べてきわめて少ない。伊良部漁協では、延べ42隻、計28.9トンの水揚げ、魚体は、大判4%、中判63%、小判5%、シビ34%で、中判主体の漁であった。またシビのうち73%が小判サイズであった。前旬に比べると隻数、水揚げともやや減少したが、前年同期に比べると隻数で3倍、水揚げが2.9倍であった。八重山漁協では、延べ28隻、計40.9トンの水揚げ。魚体は、大判60%、小判40%であった。前旬に比べると、伊良部と同様に隻数水揚げともやや減少したが、前年同期に比べると隻数では水揚げは、前年同期の3倍、水揚げは、109%で、一日一隻当たり水揚げは、前年同期の3倍で好漁であった。

マグロはえ縄

糸満港に水揚げしたマグロはえ縄組は、延べ10隻で計6.9トンの水揚げ、一隻当たり6.9トンであった。魚種はクロカワ73%、メバチ32%、キハダ24%、メカジキ6%、その他1%であった。前旬に比べると、隻数で45%、水揚げで40%と低調。前年同期と比べるとメバチの割合が3倍に増加し、キハダの割合が、3分の1に減少しているのが特徴的である。

表面水温 (昭和59年 8 月 11 日～20 日)……西日本海況旬報 (長崎海洋気象台) より引用



漁獲別、漁協別水揚げ状況 (昭和 59 年 8 月 11 日～8 月 20 日)

定置網	漁種	漁場	魚種別水揚げ量 (kg)	前日水揚げ量 (kg)
知念	カツオ	182	メアジ	42
知念	ガウラ	47	マグロ	9
糸満	糸満地先	—	—	—
与那原	伊江島	0	クロカワ	1,136
伊江	伊江島	27	トビイカ	21
知念	—	—	—	—
糸満	—	—	—	—
久米島	—	—	—	—
八重山	—	—	—	—
知念	伊良部	80	トビイカ	18
与那原	伊良部	42	トビイカ	5
糸満	伊良部	21	トビイカ	813
本部	伊良部	7,882	カツオ	20
伊良部	伊良部	1,136	メアジ	52
本ツ	伊良部	1,136	メアジ	34,871
糸満	伊良部	24,655	カツオ	—
八重山	伊良部	25,839	クロカワ	36
伊良部	伊良部	16,993	メカジキ	64,562
糸満	伊良部	212	メカジキ	22
伊良部	伊良部	315	メカジキ	173,742
糸満	伊良部	3,823	メカジキ	—
伊良部	伊良部	16,993	メカジキ	—
糸満	伊良部	212	メカジキ	—
伊良部	伊良部	315	メカジキ	—
糸満	伊良部	3,823	メカジキ	—
伊良部	伊良部	16,993	メカジキ	—
糸満	伊良部	212	メカジキ	—

漁海況旬報

(第75期)

(昭和59年8月15日)

(昭和59年8月21日～8月31日)

S海況

沖縄近海の表面水温は、28～29℃台で前旬より1℃程降温した。前年同期に比べて、0.8～1.1℃低目である。

県下各地の沿岸水温は、那覇27.2℃、宮古島28.9℃(年平均±0.1℃)、石垣島28.0℃(同±0.8℃)、与那国島28.4℃(同±0.6℃)となっている。

S漁況

定置網

今旬の知念地区の地出漁は、190隻で市揚水揚げは5トン、定置漁業は6隻で19日地出漁し水揚げは2トンで、全体の40%を占めている。

定置に入網した未漁魚種は、ガーラ77kg(25%)、カツオ73kg(26%)、メアジ3kg(3%)、ナガイユ3kg(3%)であった。前旬よりカツオの漁獲量は減少したが、その他の魚種を含めると全体で711kg(64%)の増加であった。

国頭地区は、延べ8隻出漁し、揚水揚げは1,025kg(魚種別は、ガーラ180kg(34%)、カツオ316kg(58%)、メアジ45kg(8%)であった。前旬の高産量に比べカツオが312kg(79%)、ガーラ155kg(72%)も増加している。

2地区合計の前年同期と比べ、カツオ652kg(61%)、メアジ229kg(117%)、ガーラ405kg(34%)と漁獲量は、台風の影響もあって減少した。

カジキ漁

与那国地区のカジキ漁獲量は、延べ18隻出漁し、揚水揚げは、2,395kg(21隻)で、クロカワ为主体で、平均漁獲量は、114kgであった。前旬と比べ82%と低産であった。

前年同期と比べ、127%とやや増加している。

トビウオ浮置網

今旬のトビウオ漁は、伊江漁協のみで延べ10隻出漁し、揚水揚げ量は、3,181kg(1隻)で、1隻当たりの水揚げ量は、309kgであった。漁獲は、トビウオ61%、次44kg、中144kg、

沖縄県水産試験場

〒901-03 沖縄県糸満市西原町1丁目
TEL 0989-4-3593
テレファックス 0989-4-8703

小1,737kg)、ダツ(1,127kg)その他サヨリ2% (89kg)の入網であった。前旬と比べ1隻当たり174% (前旬177kg)と水揚げ量は増加した。前年同期よりは、22%と水揚げ量は減少している。

トビウオ約

夏の風物であるトビウオ漁は、6月初旬から出漁したが、漁況不良のため全体的に水揚げが少ない。

知念地区で延べ2隻出漁し、23.5kgの高産量で1日1隻当たりの漁獲は、12kgであった。前旬に比べ75%、昨年同期とは、30%と減少している。与那国地区は、延べ1隻出漁し、28kgの水揚げであった。前旬に比べ133%、昨年同期とは68%と大巾に減少している。

糸満地区は延べ19隻出漁し、199kgの水揚げであった。1日1隻当たり11kgと前旬に比べ49%、昨年同期とは、82%と大巾に減少している。

カツオ一舟約

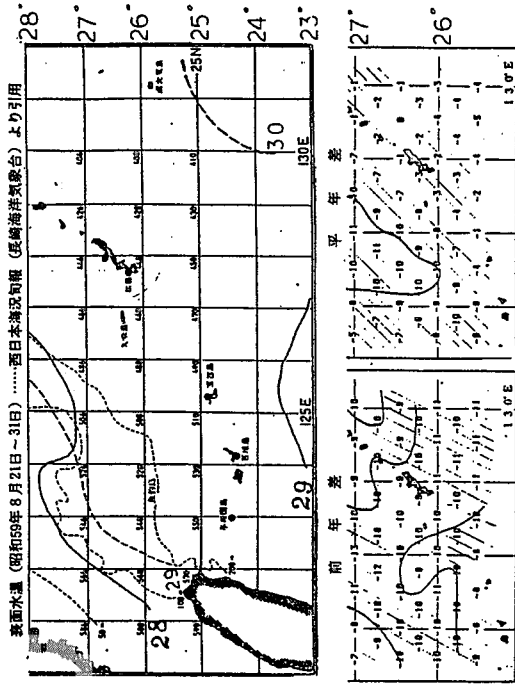
本部漁協のカツオ漁は延べ11隻出漁し、小舟主体に16,850kgの水揚げで、1隻当たり水揚げは、1,531kgであった。

前年同期と比べ水揚げ量は、265%増加している。伊良部漁協は、延べ4隻出漁し、24,488kgの水揚げで1日1隻当たり532kgであった。魚種は、カツオが57% (14,085kg)でシビ38% (A915kg)その他6% (1,488kg)であった。

前旬と比べ77%、昨年同期と比べ1日1隻当たりの水揚げは、74% (昨年同期717kg)とやや減少しているが、総量は、243% (昨年同期10,040kg)と増加している。八重山漁協は延べ24隻出漁し、48,865kgの水揚げで、大船が88%と主体で1日1隻当たりの水揚げは、2,038kgであった。

マグロはえ縄

県漁連に水揚げしたマグロは本船協は延べ17隻で、24トンの水揚げであった。1隻当たりの水揚げは、14.2トンドで前旬より、203%増えている。前年同期と比べ192%と1隻当たりの水揚げ量は、増加している。



業種別、魚種別水揚げ状況(昭和59年8月21日～8月31日)

業種	所産魚種	延べ水揚げ量(kg)	漁場	魚種別水揚げ量(kg)	水揚げ回数	前旬	
						量(kg)	隻
定置網	知念	18	知念	カツオ389 ガーラ106 マダコ0	—	—	
	与那国	1	糸満	カツオ0 クロカワ0	7	1,135	
トビウオ	知念	10	伊江	カツオ44 トビウオ127 その他89	12	353	
	与那国	1	久米島	カツオ0 トビウオ0	—	—	
カジキ	知念	2	本部	カツオ24 トビウオ28 その他28	2	42	
	与那国	1	本部	カツオ16,850	7	8,015	
トビウオ	知念	46	伊良部	カツオ1,160 トビウオ3,708 その他1,488	42	28,903	
	与那国	24	八重山	カツオ43,634 トビウオ5,231	26	40,860	
マグロ	知念	17	伊良部	カツオ1,247 マダコ6,614 その他80,022	10	68,283	
	与那国	1	糸満	カツオ201 トビウオ0	—	—	

漁海況旬報

(第78報)

(昭和59年度第18報)

(昭和59年9月21日～9月30日)

S海況

沖縄近海の表面水温は、28～29℃台で前旬とほぼ同じである。前年同期に比べて沖縄本島及び宮古、八重山の北西域は、0.1～0.8℃と低目である。その他の海域は平年並である。また、平年に比べて沖縄本島及び宮古、八重山海域とも0.4～1.2℃高目である。真下各地の沿岸水温は、那覇28.1℃、宮古島29.2℃(平年並+1.4℃)、石垣島28.4℃(同+0.6℃)となっている。

S漁況

定置網

知念地区の定置網に入った回遊性の魚の組成は、カツオ(スマ)17%、ツムブリ(ナガイユ)56%、メアジ(ガツン)2%、ヒラアジ類(ガアラ)11%、マグロ14%であった。前旬に比べてツムブリの割合が高くなり、カツオ、ヒラアジ類が減少した。ガツンは増加傾向がみられる。国頭地区で引き網入れがなされていない。

カジキ曳網

与那国地区のカジキ漁は、延べ84隻出漁し、クロカワカジキ4,903kg(62尾)、1尾の最大は239kg、最小41kg、シロカワ695kg(6尾)、1尾の最大は158kg、最小64kgであった。1日1隻当たりの水揚げ量は、102kgで前旬に比べて11%、昨年は116%やや増加した。糸満地区は水揚げはなかった。

トビウオ浮網漁

伊江地区では延べ27隻7,501kgの水揚げで1日1隻当たり278kgであった。前旬に比べて105%、昨年は126%で増加した。魚獲組成は、大8.6%、中2.4%、小61.0%、ダツ22.6%、その他5.4%で小羽玉体であった。糸満、知念、久米島、八重山地区は、操業していない。

沖縄県水産試験場

〒901-03 沖縄県糸満市西崎町1丁目
TEL 09899-4-3593
テレファックス 09899-4-8703

トビウオ釣

知念地区は延べ45隻3,940kgの水揚げで1日1隻当たり41.5kg、前旬の114%、昨年は171%で増加した。与那国地区は延べ24隻1,112kgの水揚げで1日1隻当たり46.3kg前旬の94%やや減少した。昨年は23%大巾に増加した。

糸満地区は延べ22隻2,180kgの水揚げで1日1隻当たり26.6kgで前前並、昨年は135%で増加した。佃敷は、与那国地区で270～350円/kgであった。

カツオ一本釣

本部漁協は延べ3隻出漁しカツオ計523kgの水揚げで1日1隻当たり174kgであった。前旬より76%の減少であった。伊良部漁協は延べ33隻出漁し24,051kgの水揚げで1日1隻当たり728.8kgで前旬の188%で増加した。魚の組成は、カツオ計6.4%、小45.9%、(ヒリ)25.4%、マグロはシンビ20.3%、その他2.0%であった。本部、伊良部とも昨年同前は水揚げがなかった。

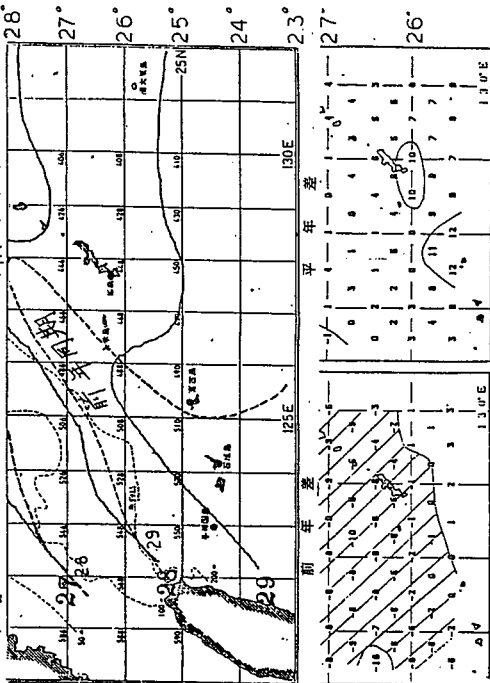
八重山漁協は延べ9隻カツオ計6,908kgの水揚げであった。1日1隻当たり767.5kgで前旬の19%で減少した。昨年は、107%であった。

伊高部漁協の水揚げの増加は、バヤオ(浮魚漁)利用の活断(クサカゴ幼魚10～15cm)平均りが継続していることにある。

マグロはえ縄

東漁連に水揚げしたマグロはえ縄船は延べ13隻で水揚げは、89,674kgで前旬の88%で減少した。昨年は126%で増加した。魚種は、メバチ37.4%、クロカワカジキ28.0%、キハダ27.9%、その他5.7%であった。

表面水温 (昭和59年9月21日～30日) ……西日本海況図解 (長崎海洋気象台) より引用



漁獲別、漁協別水揚げ状況 (昭和59年9月21日～9月30日)

所産	定置網	曳網	浮網	魚種別	水揚げ量(kg)	新回
知念	カツオ	カツオ	カツオ	カツオ	287	メアジ
伊江	カツオ	カツオ	カツオ	カツオ	74	9
伊高部	カツオ	カツオ	カツオ	カツオ	4,903	59
伊良部	カツオ	カツオ	カツオ	カツオ	1,693	26
八重山	カツオ	カツオ	カツオ	カツオ	6,908	42
本部	カツオ	カツオ	カツオ	カツオ	24,051	16
伊高部	カツオ	カツオ	カツオ	カツオ	11,088	142
伊良部	カツオ	カツオ	カツオ	カツオ	6,908	16
八重山	カツオ	カツオ	カツオ	カツオ	25,962	679
本部	カツオ	カツオ	カツオ	カツオ	24,051	33,581
伊高部	カツオ	カツオ	カツオ	カツオ	11,088	142
伊良部	カツオ	カツオ	カツオ	カツオ	6,908	16
八重山	カツオ	カツオ	カツオ	カツオ	6,908	16
本部	カツオ	カツオ	カツオ	カツオ	24,051	16
伊高部	カツオ	カツオ	カツオ	カツオ	11,088	142
伊良部	カツオ	カツオ	カツオ	カツオ	6,908	16
八重山	カツオ	カツオ	カツオ	カツオ	6,908	16
本部	カツオ	カツオ	カツオ	カツオ	24,051	16
伊高部	カツオ	カツオ	カツオ	カツオ	11,088	142
伊良部	カツオ	カツオ	カツオ	カツオ	6,908	16
八重山	カツオ	カツオ	カツオ	カツオ	6,908	16

漁海況旬報

(第 79 報)

(昭和59年度第19報)

(昭和59年10月1日～10月10日)

S 海況

沖縄近海の表面水温は、26～29℃で前旬とはほぼ同じである。前年同様に比べて沖縄本島東海岸及び北西域にかけ0.1～0.4℃低目である。沖縄本島と宮古島間は、0.1～0.4℃高目である。宮古島と八重山島の周辺海域とその北西域は、0.1～1.1℃低目である。また平年に比べて沖縄本島及び宮古、八重山海域とも0.4～1.2℃高目である。県下各地の沿岸水温は、那覇27.8℃、宮古29.0℃(平年高+0.2℃)、石垣島29.4℃(高+1.3℃)、与那国島28.0℃(高+0.8℃)となっている。

S 漁況

定置網

国頭、知念両地区の定置網に導入した回遊性魚類は、415知であった。魚の種類は、カツオ類4.6%、ツムブリ類(ガイユ)48.1%、メアジ(ガツソ)5.1%、ヒラアジ類(ガーラ)42.2%で、知念でガーラ、国頭でメアジが多獲された。

カジキ漁獲

与那国地区のカジキ漁獲は、延べ33隻が水揚げし、クロカワ2,904kg(36尾)、シロカワ257kg(2尾)であった。クロカワは、最大290kg、最小38kg、シロカワは、最大164kg、最小33kgであった。前旬の75%の水揚げと不調であったが、前年同前の165%の水揚げで前年に比べては、好調であった。

糸満地区では、水揚げがなかった。

沖縄県水産試験場

〒901-09 沖縄県糸満市西崎町1丁目
TEL 09899-4-3593
テレファックス 09899 4 8703

トビウオ浮遊網

伊江地区では、延べ11隻、5,725kgの水揚げで、前旬の76%、前年同前の139%であった。
魚種組成は、大2.6%、中0.0%、小88.1%、ダツ4.4%、その他4.9%で、小の漁獲割合が多い。

トビイカ釣

知念地区は、延べ109隻で、4,905kg、与那国地区は延べ38隻で1,998kg、糸満地区は、延べ65隻で、2,259kgで、いずれも前旬に比べて104～180%の水揚げで好調であった。しかし前年同前に比べると、43～77%の水揚げであった。

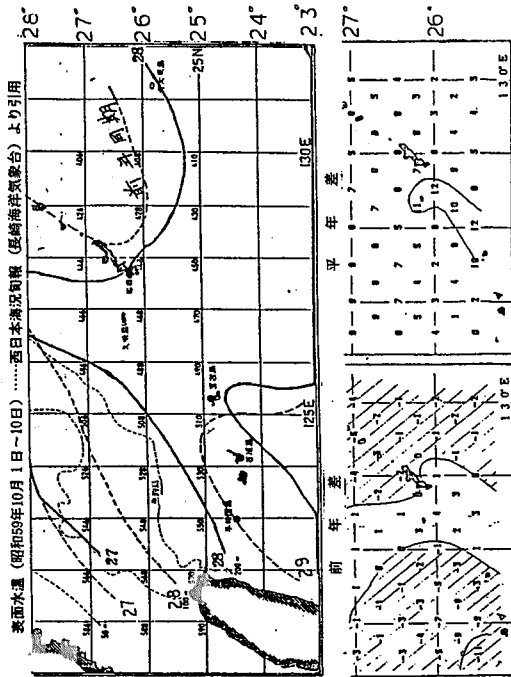
カツオ一本釣

本部、八重山地区では、終了した。

マグロはえ縄

県漁連に延べ12隻のマグロはえ縄船が112,555kg水揚げした。

前旬に比べて125%、前年同前に比べて、119%の水揚げであった。魚種組成は、キハダ43.9%、メバチ31.7%、クロカワ20.3%、メカジキ3.4%、その他1.8%であった。



業種別、漁獲別水揚げ状況 (昭和59年10月1日～10月10日)

所産魚種	漁獲量 (kg)	漁獲別水揚げ量 (kg)	魚種別水揚げ量 (kg)	前年差 (kg)	今年差 (kg)
カツオ	19	ナガイユ	200	メアジ	21
メアジ	175	マダラ	0		
シロカワ	257	クロカワ	2,904		
メバチ	141	キハダ	5,042	その他	273
メカジキ	19	その他	250		7,501
その他	19				
カツオ	109	シロカワ	4,905	トビイカ	4,905
メアジ	175	メバチ	1,998	トビイカ	1,998
シロカワ	257	メバチ	2,259	トビイカ	2,259
メバチ	141	その他	250		
メカジキ	19				
その他	19				
カツオ	19	シロカワ	22,846	シロカワ	383
メアジ	175	メバチ	48,248	メバチ	629
シロカワ	257	メバチ	48,444	メバチ	35
メバチ	141	その他	250	その他	1,079
メカジキ	19				
その他	19				
カツオ	109	シロカワ	4,905	トビイカ	4,905
メアジ	175	メバチ	1,998	トビイカ	1,998
シロカワ	257	メバチ	2,259	トビイカ	2,259
メバチ	141	その他	250		
メカジキ	19				
その他	19				

漁海況旬報

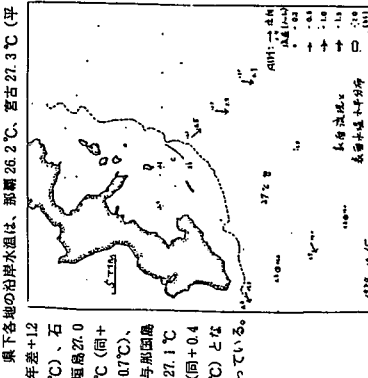
(第 80 報)

(昭和59年度第 20 報)

(昭和59年10月11日～10月20日)

S 海 況

沖縄近海の表面水温は、23℃台で前旬とはほぼ同じである。前年同旬に比べて0.1～0.9℃程低目。平年に比べて0.1～1.9℃程高目である。当水はの観測値から11日および10月15日～18日に突如とした沖縄本島南東部沿岸の表面水流況観測では、草履武輪の2.5メートル沖で0.3ノットの南西流、その沖合部も0.7ノットの南西流であった。中城湾口沖では、0.5ノット南東流その沖合部では、0.7～0.8ノットの南流がみられた。



S 漁 況

定置網
今旬の知念地区の市場総水揚量は、10.833kg。そのうち定置漁業は6隻で、延べ50日出漁し、水揚は2,617kgで、総水揚の24%を占めている。定置に入網した漁獲はガーラが152kg(70%)と大部分を占め、メアジ(ガツン)33kg(16%)、マグロ26kg(12%)、カツオとナガイユで6kg(2%)の順となっている。国頭地区の市場総水揚量は、475kg。定置は、延べ6隻出漁し380kgの水揚量で大部分が定置からの水揚げであった。魚群組成は、カツオ47kg(71%)、メアジ(ガツン)19kg(29%)であった。

沖縄県水産試験場

〒901-003 沖縄県糸満市西崎町1丁目
TEL 09899-4-3593
テレファックス 09899 4 8703

カジキ漁

与那国地区のカジキ漁は、延べ31隻出漁し、水揚量は、3,269kgで1日当たりの漁獲量は105kgであった。クロカワが3,087kg(31%)、シロカワが212.212kg(2%)で、クロカワ1尾の最大が533kgで、最小が37kgであった。前旬に比べ水揚量は、109kg増加している。昨年同旬よりは、113kgと増加している。糸満地区は9月に開始終了し底延縄、一本約に延縄している。

トビウオ浮群網

トビウオ漁の出漁している漁船は、伊江漁船のみで今旬は、延べ31隻出漁し、水揚量は3,269kgで、1日当たりの水揚量は105kgであった。魚種は、トビウオ70% (3,277kg)、小4,550kg)、ダツ22% (2,494kg)、その他8% (913kg)であった。前旬と比べ70%と減少し、昨年同旬より136kg増加している。

トビイカ釣

9月のトビイカ漁は、全般に低調であったが、10月上旬より持ち直した。知念地区は延べ9隻出漁し6,967kgの水揚量で1日1隻当たりの水揚量は74kgであった。前旬に比べ184kg、昨年同旬より180kgの増加であった。与那国地区は延べ45隻出漁し3,847kg、1日1隻当たりの水揚量は85kg、前旬に比べ180kg増加し、昨年同旬より177kg増加している。糸満地区は、延べ75隻出漁し4,489kgの水揚量であった。1日1隻当たり60kgで、前旬より171kgの増加昨年同旬より200kgも増加している。

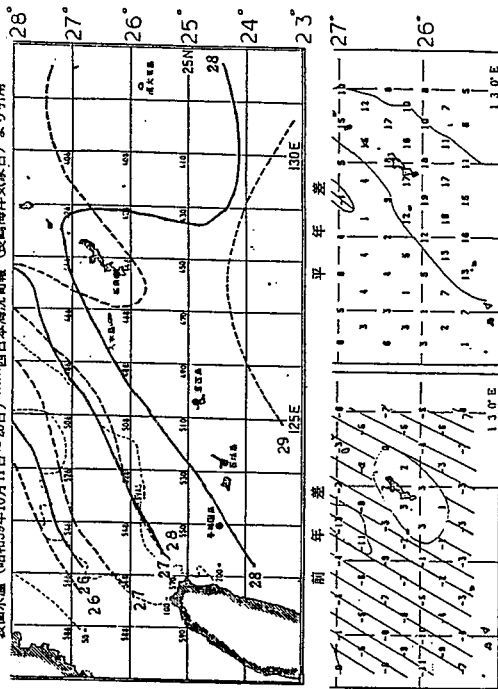
カツオ一本釣

今旬カツオ漁は、本部、八重山地区で9月下旬に漁期終了した。三線沖でのカツオ漁は、曇漁が続き、50年代のカツオ漁獲量は、22万1千トン、これまでの水揚量の15%を占めることである。

マグロはえ縄

県漁業に水揚げしたマグロはえ縄船は、延べ18隻で18トンの水揚げであった。1隻当たりの水揚量は、14.8トンで前旬より90%と減少している。昨年同旬と比べ104%とや増加している。

表面水温 (昭和59年10月11日～20日) ……西日本漁況旬報 (長崎海洋気象台) より引用



業種別、漁獲別水揚状況 (昭和59年10月11日～10月20日)

産種	所産	漁獲	漁獲	漁獲	前	回
別	別	量	量	量	日	数
(kg)	(kg)	(kg)	(kg)	(kg)	(kg)	(回)
カツオ	50	フカイユ	3	メアジ	52	—
ガーラ	152	マグロ	26	—	—	—
シロカワ	212	クロカワ	3,057	33	3,161	—
伊江	31	伊江島近海	494,550 (ダツ)	2,494	その他	913
知念	—	—	—	—	—	—
糸満	—	—	—	—	—	—
八重山	—	—	—	—	—	—
知念	94	6,967	久高沖	トビイカ	6,967	109
与那国	45	3,847	久高沖	トビイカ	3,847	38
糸満	75	4,489	草履武輪	トビイカ	4,489	65
本部	—	—	—	—	—	—
伊良部	—	—	—	—	—	—
池間	—	—	—	—	—	—
八重山	—	—	—	—	—	—
横濱	16	1,374	64	シロカワ	33,472	473
横濱	—	—	—	メアジ	3,765	—
横濱	—	—	—	カツキ	48,507	—
横濱	—	—	—	ペンタカ	1,197	—
横濱	—	—	—	シロカワ	—	12
横濱	—	—	—	メアジ	—	112
横濱	—	—	—	ペンタカ	—	535

魚海況旬報

(第 22 報)

(昭和 59 年度 第 22 報)

(昭和 59 年 11 月 1 日 ~ 11 月 10 日)

§ 海況

沖縄近海の表面水温は、26 ~ 28°C 台で前旬より 1 ~ 2°C 程降した。前年同期に比べて 1.0 ~ 2.2°C 低め、平年に比べてやや低めに経過している。



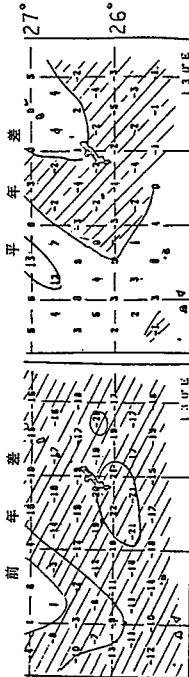
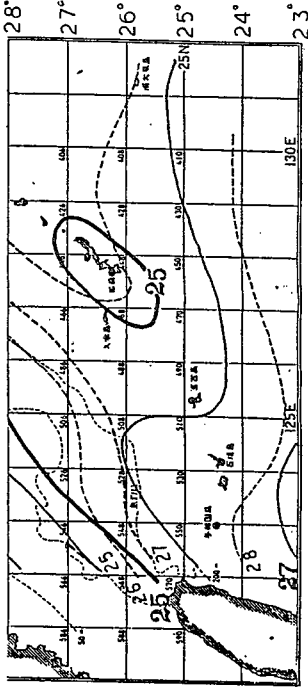
当水試が 11 月 7 日 ~ 10 日に実施した沖縄島北西の海洋観測 (図参照) では、伊江島西方で最大 1.5 ノット、久米島北西方で向 1.8 ノットで前旬 (同年 8 月) とほぼ同様である。黒潮流路が大體南に移動している。伊江島西側に 1.5 ノット、久米島南側に 1.3 ノットの強い流れがみられた。県下各地の沿岸水温は、那覇 24.1°C、宮古島 24.7°C (平年差 +0.2°C)、石垣島 25.3°C (向 +0.6°C)、与那国島 26.2°C (向 +0.5°C) となっている。

§ 漁況

定置網

知念地区の定置網に入網した回遊性浮魚の組成は、メアジ (ガンツ) 65%、アジ類 (ガーラ) 21%、ツムブリ (ナカイユ) 8%、カツオ 5% であった。同地区は、メアジ 74%、カツオ 26% であった。同地区ともメアジが約 7割を占めていた。

表面水温 (昭和 59 年 11 月 1 日 ~ 10 日) 西日本海況旬報 (長崎海洋気象台) より引用



業種別、漁獲別水揚げ状況 (昭和 59 年 11 月 1 日 ~ 11 月 10 日)

業種	漁獲別水揚げ量 (kg)	漁場	魚種別水揚げ量 (kg)	前旬水揚げ量 (kg)	
カツオ	10	ナカイユ	10	メアジ	95
アジ類	27	マダラ	0		
カツオ	573	伊江島	518		1,764
アジ類	4,559	伊江島	4,535		1,505
カツオ	17	久米島	529		1,033
アジ類	21	久米島	1,177		1,050
カツオ	6	宮古島	118		1,148
アジ類	19	宮古島	522		10,943
カツオ	12	八重山	948		
アジ類	12	八重山	3,180		
カツオ	240	石垣島	44,381		
アジ類	16,381	石垣島	1,349		
カツオ	20,991	石垣島	948		
アジ類	240	石垣島	3,180		
カツオ	16,381	石垣島	44,381		
アジ類	82	石垣島	1,349		

沖縄県水産試験場

〒 901-03 沖縄県糸満市西崎町 1 丁目

TEL 09899-4-3593

テレファックス 09899 4 8703

カジキ本漁

与那国地区のカジキ本漁は、延べ 4 隻でクロコウカジ 438 ㎏ (4 尾)、シロコウカジ 55 ㎏ (1 尾) であった。クロコウカジの魚体の断面は、最大 235 ㎏、最小 65 ㎏、平均 130 ㎏であった。1 日 1 隻当たりの水揚げ量は 143 ㎏で前旬と比較すると 118 ㎏でやや増加した。前年同期と比較しても 115 ㎏で増加している。

トビウオ浮網

伊江島地区では、延べ 14 隻 4,559 ㎏の水揚げで 1 日 1 隻当たり 328 ㎏であった。魚種組成は、トビウオ 1%、ダツ 99% で大部分を占めていた。

トビイカ釣

知念漁協では、延べ 19 隻出漁し 529 ㎏の水揚げであった。1 日 1 隻当たり 31 ㎏で前旬と比較すると 54% で半減している。前年同期とは 89% でやや減少している。与那原漁協では延べ 21 隻出漁し 1,177 ㎏の水揚げであった。1 日 1 隻当たり 56 ㎏で前旬と比較すると 90% でやや減少している。前年同期とは 156% で増加している。赤瀬漁協では、延べ 6 隻出漁し 118 ㎏の水揚げであった。1 日 1 隻当たり 20 ㎏で前旬と比較すると 67% で半減し、前年同期とも 74% で減少した。

カツオ一本釣

伊良部漁協は、延べ 19 隻出漁し 11,548 ㎏の水揚げで 1 日 1 隻当たり 608 ㎏であった。前旬比で 150% 多、前年同期比では減少していた。魚体は、小判 4%、ビリ 90%、シビ 6% であった。

マグロはえ網

県漁運に水揚げしたマグロは、延べ 12 隻で 96.8 トンの水揚げで 1 隻当たり 8.1 トンであった。前旬比で 89% 昨年比で 137% であった。魚種割合は、メバチ 46%、クロコウ 31%、キハダ 17%、メカジキ 3%、その他 6% であった。

漁海況旬報

(第 105 報)
 (昭和 59 年度 第 25 報)
 (昭和 59 年 12 月 1 日 ~ 12 月 10 日)

§ 海 況

沖縄近海の海面水温は25℃で、前旬とはほぼ同様である。前年同期に比べて全般的に0.2~0.8℃高みである。また平年に比べて0.6~1.1℃高みである。

県下各地の沿岸水温は、那覇22.2℃、宮古島21.8℃、(平年差-0.1℃)、石垣島22.6℃(向+0.4℃)、与那国島23.3℃(向-0.6℃)となっている。

§ 漁 況

定置網

今旬の知念地区の定置網漁業はにぎで延べ11日出漁し、総水揚げは169kgであった。定置に入網した主要浮魚類144kg、そのうちカツネ58kg(40%)、ナガイユ10kg(7%)、メアジ(カツン)49kg(34%)、ガーラ27kg(19%)、の順となっている。前旬より主要浮魚類は25kg(50%)の減少であった。

国頭地区は2隻で延べ4日出漁し、総水揚げは50kgであった。そのうち主要浮魚類はガーラ5kgのみであった。

カジキ網

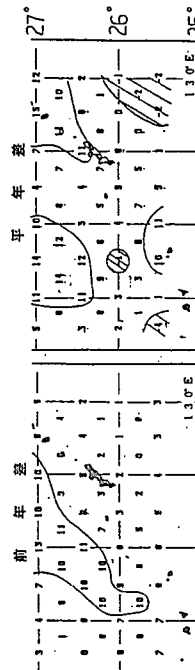
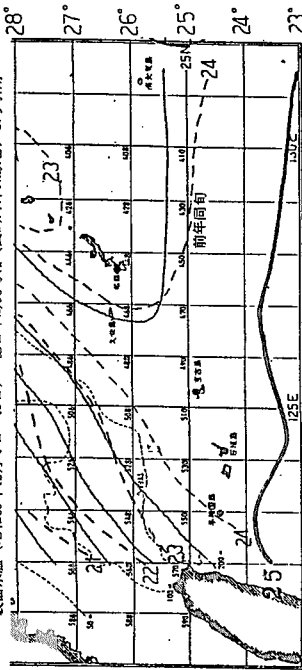
与那国、糸満地区のカジキ漁は与那国が11月下旬、糸満が10月下旬に漁期終了し、産魚一本約、アカシジメ及び、その他の魚類に転換した。

トビウオ浮網

今旬のトビウオ漁は伊江漁絡のみで延べ6隻出漁し、2,906kgの水揚げであった。そのうちトビウオ小2,987kg、ダツ1,919kgであった。前旬と比べトビウオは942kgも増加した。

トビウオ漁の盛んな6地区の1月~9月までの総水揚げ量は451トンであった。6地区の内訳を示すと、八重山222トン、伊江島111トン、糸満52トン、港川23トン、知念23トン、久米島14トンの順となっている。前年よりトビウオ漁へ着業する漁船も増え、そのため水揚げ量も大幅に増加した。

海面水温 (昭和59年12月1日~10日) ... 西日本海況旬報 (長崎海洋気象台) より引用



漁目別、産別別水揚げ状況 (昭和 59 年 12 月 1 日 ~ 12 月 10 日)

産別	漁域	漁種	漁船	漁船名	漁船番号	水揚げ量 (kg)	水揚げ回数	前 日
定置網	知念	魚	知念	知念	5	169	1	171
定置網	伊江	魚	伊江	伊江	10	54	6	169
トビウオ	伊江	魚	伊江	伊江	6	2,987	4	315
トビウオ	伊江	魚	伊江	伊江	1	1,919	4	315
トビウオ	伊江	魚	伊江	伊江	1	942	12	6,873
トビウオ	伊江	魚	伊江	伊江	1	577	16	111,988
トビウオ	伊江	魚	伊江	伊江	1	2,650	16	111,988
トビウオ	伊江	魚	伊江	伊江	1	27,464	16	111,988
トビウオ	伊江	魚	伊江	伊江	1	1,520	16	111,988

沖縄県水産試験場

〒 901-03 沖縄県糸満市西崎町1丁目
 TEL 09899-4-3593
 テレファックス 09899 4 8703

トビウオ旬報

今旬のトビウオ漁は糸満地区のみが1隻出漁し、1kgの水揚げであったが前旬とは大差はなかった。

カツネ一本釣

本部、伊良部、八重山地区のカツネ漁は9月下旬に休漁期となり、特に八重山地区の19トンのカツネ漁船は10月からマダロはえ縄漁と産魚一本釣にそれぞれ転換した。

マダロはえ縄

西漁連に水揚げしたマダロはえ縄は、延べ11隻で113トンの水揚げであった。前旬に比べ2トンの増で、前旬比では30トン減少している。一撃あたりの水揚げ量は8トンの前旬より9%の増加であった。

漁海況旬報

(第106報)

(昭和59年度 第26報)

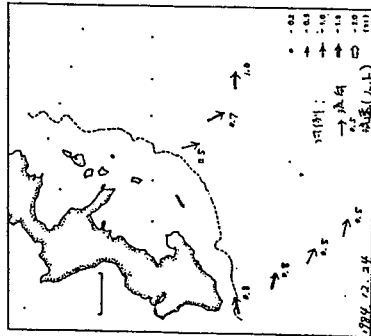
(昭和59年12月11日～12月20日)

S 海況

沖縄近海の表面水温は23～24℃台で、前旬に比べ1～2℃増進した。

当水柱の観測船くらしおが12月20日に実施した沖縄沿岸の表面流況観測では、沖縄本島とその南西15マイルの間では0.5～0.8ノットの東～南東流がみられた。

県下各地の沿岸水温は、那覇22.4℃、宮古島22.2℃(平年差+0.9℃)、石垣島22.7℃(同+0.9℃)、与那国島24.6℃(同+1.1℃)となっている。



S 漁況

定置網

知念地区の定置網に入網した回遊性浮魚は25尾、魚群組成はマグロ84%、カツオ16%であった。前旬に比較して水揚げ量は大幅に減少した。また、前年同期に比較しても大幅に減少し、不漁であった。

恩師地区の定置網に入網した回遊性浮魚は312尾で前旬に比較して大幅に増加した。魚群組成は、メアジ(ガツン)82%、ガーラ(アジ)12%、カツオ6%であった。前旬はガツンだけのみの水揚げ量であった。

沖縄県水産試験場

〒901-03 沖縄県糸満市西崎町1丁目
TEL 09899-4-3593
テレフックス 09899 4 8703

カジキ漁獲

出漁船なし

トビウオ浮袋網

伊江島地区では延べ延べ3,161尾の水揚げ量であった。前旬に比較して水揚げ量は109%で前旬並みの漁であった。
・1日1隻当りの水揚げ量は211尾、前旬に比較して44%で大幅に減少した。魚群組成はダツ97%、トビウオ(大)2%、トビウオ(小)1%で圧倒的にダツが多くなり水揚げされた。前旬もダツの占める割合が66%と高かったが今旬ほどではなかった。

トビイカ釣

出漁船なし

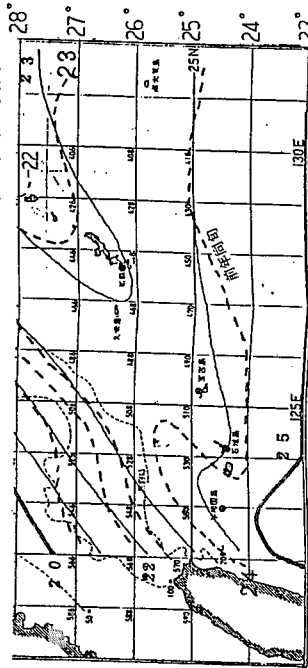
カツオ一本釣

出漁船なし

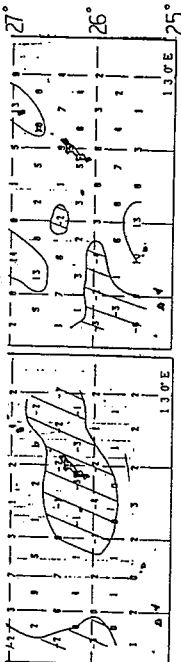
マグロはえ縄

興漁漁に水揚げしたマグロはえ縄船は延べ14隻、水揚げ量は143トンであった。前旬に比較して126%で若干増加、前年同期に比較して180%で大幅に増加した。1日1隻当り水揚げ量は10.2トンで、前旬に比較して126%、前年同期に比較して182%で水揚げ量同様に増加した。魚群組成は、キハダ43%、クロカワ28%、メバチ24%、その他7%で前3種で90%以上を占めた。前旬に比べてキハダ、メバチは前旬並み、クロカワは若干増加した。前年同期に比べて、クロカワは前年同期並みであったが、キハダ、メバチは増加した。そのかわりビンナガの占める割合が大幅に減少した。

表面水温 (昭和59年12月11日～20日) …西日本海況旬報(長崎海洋気象台)より引用



前年差



漁獲別、漁船別水揚げ状況 (昭和59年12月11日～12月20日)

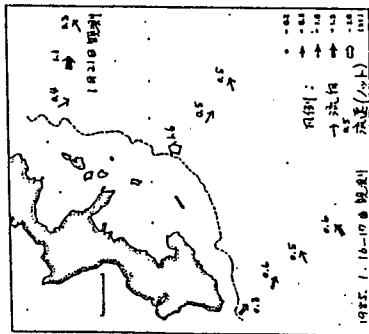
漁獲別	漁船別	漁場	魚獲別水揚げ量 (kg)	前年差 (kg)
定置網	知念	全地	312	256
浮袋網	伊江	全地	25	21
一本釣	伊江	全地	15	144
はえ縄	伊江	全地	143	109
トビイカ釣	伊江	全地	0	0
トビウオ	伊江	全地	211	109
カジキ	伊江	全地	0	0
マグロ	伊江	全地	143	126
メバチ	伊江	全地	24	24
キハダ	伊江	全地	61	61
その他	伊江	全地	7	7
ビンナガ	伊江	全地	0	0
合計	伊江	全地	549	549

漁海況旬報

(第109報)
 (昭和59年度 第29報)
 (昭和60年1月11日～1月20日)

S 海況

沖縄近海の表面水温は20～22℃で前旬とほぼ同様である。前年同期に比べて沖縄本島周辺海域では、-0.1～-0.6℃低めである。宮古島、石垣島周辺海域では0.1～0.8℃高めである。また平年と比べて沖縄本島周辺海域では0.5～0.8℃高め、宮古島、石垣島周辺海域では0.3～0.9℃高めである。久米島北西海域では-0.2～0.4℃低めである。当水柱の観測値は1月10日～17日に突進した。沖縄沿岸の表面流況観測では、豊盛武庫沖合で0.6～0.8ノットの南東流、その沖合で0.5～0.6ノットの北東流がみられた。



県下各地の沿岸水温は、那覇20.9℃、宮古島19.6℃(平年差-0.4℃)、石垣島19.8℃(同-0.5℃)となっている。

沖縄県水産試験場

〒901-03 沖縄県糸満市西崎町1丁目
 TEL 09899-4-3593
 テレファックス 09899 4 8703

S 漁況

定置網
 知念、与那原地区の回遊性魚類の水揚げ量は288kgで前旬に比べて20%の伸びであった。全体的に昨年11月下旬からカツオ(スマ)の占める割合が高くなっている。

浮魚は知念地区では、カツオ(スマ)54%、ガツン(メアジ)19%、マグロ17%、その他ナガイユ(ムロアジ)6%、ガーラ(平アジ類)4%であった。

なお与那原地区の3群営体の水揚げは726kgで魚種割合はミズン(ヤマトミズン)25%、ヒラー(ヒライキ)21%、タチ(タチウオ)13%、カツオ12%、アンチン(ドロクイ)10%、ユガー(ヨスジジマイサキ)9%、カマサー(カマス)2%、白イカ2%、その他6%であった。

国頭地区は網を撤揚げし休漁中である。

カジキ漁網

与那原、糸満地区とも昨年11月下旬から操業船はなく、水揚げもない。

トビウオ浮草網

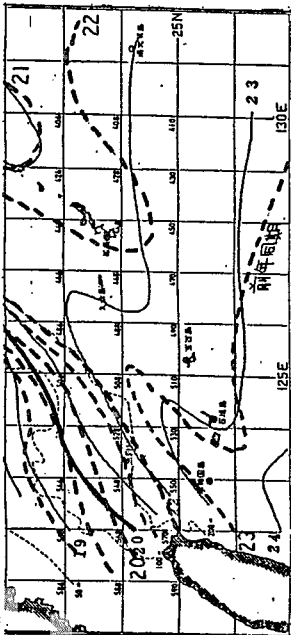
前旬に引き続き操業しているのは、伊江地区だけで延べ11隻3,741kgの水揚げであった。魚種は、99%ダブで、昨年11月下旬からダブの割合が高くなった。

マグロはえ網

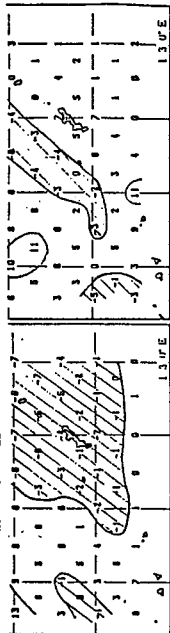
県漁連に水揚げしたマグロはえ網船は延べ13隻75トンの水揚げであった。水揚げ船は県内船が12隻71.6トン、県外船1隻3.5トンであった。

県漁連のセリにかけられた数量は104トンで、魚種割合はクロカワ32%、メバチ25%、ビンナガ23%、キハダ14%、その他6%であった。

表面水温 (昭和60年1月11日～20日) 西日本海況旬報(長崎海洋気象台)より引用



前年差



魚種別、漁獲別水揚げ状況 (昭和60年1月11日～1月20日)

漁獲品名	漁獲品別水揚げ量 (kg)	漁獲品別水揚げ量 (kg)	前日
カツオ	187	ナガイユ	128
メバチ	10	メアジ	34
ビンナガ	7	マグロ	121
キハダ	30		25
その他	—		—
計	241		318
伊江	11	伊江島	3
知念	3,741	トビウオ	412
糸満	—	ダブ	—
与那原	—		—
久米島	—		—
八重山	—		—
知念	—		—
与那原	—		—
糸満	—		—
本島	—		—
伊江	—		—
池間	—		—
約オ	—		—
八重山	—		—
計	75,065		4,086
伊江	13	クロカワ	2,425
知念	—	メバチ	4,909
糸満	—	ビンナガ	6,862
与那原	—	キハダ	32,922
久米島	—	その他	427
八重山	—	計	91,217

漁海況旬報

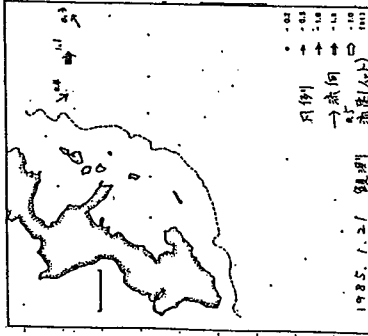
(第10号)

(昭和59年度 第30報)

(昭和60年1月21日～1月31日)

§ 海況

沖縄近海の表面水温は21～23℃で、前旬より1℃程降温した。前年同期に比べて-0.2～-0.1℃低め、また平年差は沖縄本島西部海域で-0.1～-0.5℃低め、東部海域と宮古島、石垣島海域は、ほぼ平年並みである。当水試の観測船くらしおが1月21日に実施した沖縄沿岸の表面流観測では、金武湾沖で0.3～1.1ノットの東ないし南東流がみられた。



県下各地の沿岸水温は那覇21.7℃、宮古島20.2℃(平年差0.3℃)、石垣島18.6℃(同-1.7℃)、与那国島21.9℃(同-0.4℃)となっている。

§ 漁況

定置網

今旬の定置漁業は四頭、知念、与那原地区の3漁港で2,645kgの水揚げであった。前旬と比べるとカツオ、ガーラの入網が上向き、回遊性浮魚の水揚げは19%の伸びであった。知念地区は10隻で延べ44隻出漁し、浮魚の水揚げ量は4,385kgであった。魚種組成はカツオ38%、サカイユ4%、

沖縄県水産試験場

〒901-003 沖縄県糸満市西條町1丁目
TEL 09899-4-3593
テレファックス 09899 4 8703

メアジ48%、ガーラ6%、マグロ6%であった。前旬と比べると216%の増加であるが、前年同期よりは42%の減少である。

与那原地区における3経営体の水揚げ量は799kgであった。回遊性浮魚は124kgでカツオの水揚げが100%を占めた。浮魚以外のその他の魚種組成はアジチン145kg(18%)、ミズシ121kg(16%)、ヒライチ113kg(14%)、タチ61kg(8%)、カマサ58kg(7%)、エー37kg(5%)、シザー34kg(4%)、その他83kg(10%)であった。

四頭地区は1隻で延べ2日出漁し、202kgの水揚げであった。このうち、浮魚の水揚げは79kgで魚種組成はガーラ66kg(84%)、カツオ11kg(14%)、メアジ2kg(2%)であった。

トビウオ浮取網

黒潮にそって栄達する春トビウオの時期はまだ早いよう、昨年だと八重山地区は3月初旬にトビウオ漁が始まり、本島地区は1月おくれの4月初旬から始まる。

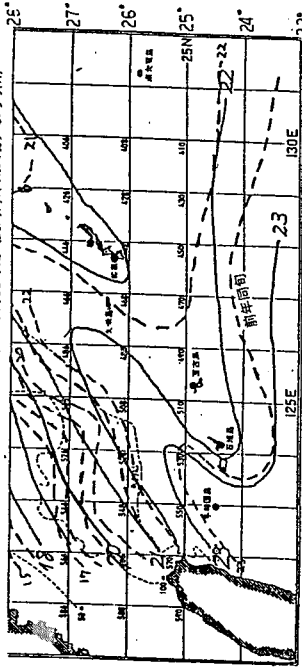
伊江島地区のトビウオ漁は昨年同様続いているが、今旬は延べ3隻出漁し、主体であるトビウオの水揚げ量は皆でダツの水揚げが603kgであった。

マグロはえ網

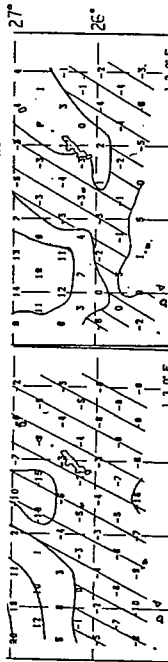
県漁連に水揚げしたマグロはえ網は、延べ13隻入港し、78.9トンの水揚げで昨年平均は6,070kgであった。前旬比で105%とわずかな上昇であったが、前年同期と比べると77%の低産であった。

魚種割合はキハダ88%、メバチ31%、ビンナガ11%、メカジキ5%、クロカワ5%、マカジキ1%、シロカワ0.5%、パンショウ0.5%、その他1%であった。

表面水温 (昭和60年1月21日～31日) 西日本海況旬報 (長崎海洋気象台) より引用



前年差



漁種別、漁別水揚げ状況 (昭和60年1月21日～1月31日)

種類	所属漁協	漁場	魚種別	水揚げ量 (kg)	前回数
定置網	知念	知念	カツオ	11	0
			メアジ	2	0
			シロカワ	2	0
			メバチ	2	0
			マカジキ	0	0
			パンショウ	0	0
			その他	0	0
トビウオ	伊江	伊江島	トビウオ	603	11
マグロ	知念	知念	カツオ	11	0
			メアジ	2	0
			シロカワ	2	0
			メバチ	2	0
			マカジキ	0	0
			パンショウ	0	0
			その他	0	0
その他	知念	知念	カツオ	11	0
			メアジ	2	0
			シロカワ	2	0
			メバチ	2	0
			マカジキ	0	0
			パンショウ	0	0
			その他	0	0
合計				78,902	13
				778	38
				4,116	593
				24,612	75,065
				390	8,655

漁海況旬報

(第 111 報)
 (昭和 59 年度 第 31 報)
 (昭和 60 年 2 月 1 日 ~ 2 月 10 日)

S 海況

沖縄近海の海面水温は 21 ~ 23℃ 台で、1 月上旬とほぼ同じである。

前年同様に比べて沖縄本島周辺海域は、0.2 ~ 0.5℃ 高め、吾舌、八重山海域は 0.1 ~ 0.6℃ 低めである。また、平年に比べて沖縄本島周辺海域及び、吾舌、八重山海域とも 0.2 ~ 0.1℃ 低めである。伊江島北西域ではやや低めとなっている。

県下各地の沿岸水温は、那覇 21.4℃、吾舌島 21.0℃ (平年差 +1.1℃)、石垣島 19.3℃ (同 -1.0℃)、与那国島 22.5℃ (同 +0.1℃) となっている。

S 漁況

定置網

国頭、知念、与那原の 3 地区の回遊性魚類の水揚げ量は 170 ㎏ で、前年に比べて 29% で大幅に減少した。魚種組成はカツオ 65%、ガーラ 23%、メアジ (ガツン) 12% であった。前旬は、カツオ、メアジ、ガーラ、マグロ、ナガイユの順に多く水揚げされた。

各地区の水揚げ状況は、国頭地区の水揚げ量は 158 ㎏ で、そのうち回遊性魚類は 60 ㎏ で 38% を占めた。回遊性魚類では、ガーラが最も多く水揚げされ、回遊性魚類中 40% を占めた。ついでメアジ 22%、カツオ 28% であった。前旬に比べて、メアジ、カツオの割合が増加し、ガーラの割合が減少した。

知念地区の回遊性魚類の水揚げ量は 79 ㎏ で、前旬に比べて 21% で大幅に減少、前年同様に比べて 8% で大減に減少した。魚種組成は、カツオ 80%、ガーラ 19%、メアジ 1% であり、前旬に比べて、メアジ、ガーラ、ナガイユ、マグロの割合が減少し、カツオの割合が増加した。前年同様に比較してもメアジ、ガーラの割合が減少し、カツオの割合が増加した。

与那原地区の水揚げ量は 464 ㎏ で、そのうち回遊性魚類の割合は 7% であった。回遊性以外の魚種ではアシナン (ドクイ) が最も多く水揚げされ、総水揚げに占める割合

沖縄県水産試験場

T 901-03 沖縄県糸満市西崎町 1 丁目
 TEL 09899-4-3593
 テレファックス 09899 4 8703

合は 39% であった。ついでヒララ (ヒライキ) 19%、シザ (ダツ類) 8%、タチ (タチウオ) 7%、カマサ (カマス類) 6%、白イカ (アオリイカ) 5%、その他 9% であった。前旬に比べると、総水揚げ量は 50% 減少した。魚種組成を比較するとカツオ、タチ、ミズン (ヤマヒメズン)、エー (アイゴ類) の割合は減少、ヒララ、カマサ、シザ、白イカの割合は増加した。

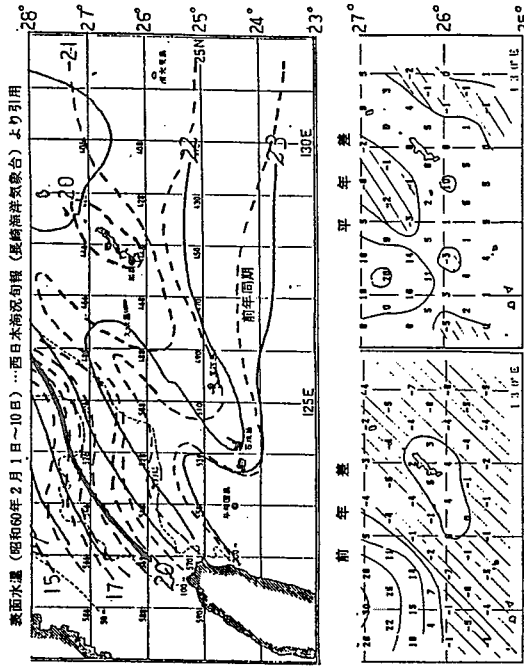
トビウオ浮置網

伊江島地区にのべ 3 隻、256 ㎏ の水揚げがあった。魚種はダツが 99% を占めた。前旬に比較すると、のべ隻数は同じ、水揚げ量は 42% で大減に減少した。

マグロはえ網

県漁運市場に水揚げしたマグロはえ網船はのべ 4 隻、水揚げ量は 85 トンであった。魚種組成は、キハダが最も多く水揚げされ、51% を占め、ついで、メバチ 33%、メカジキ 5%、その他のマグロ、カジキ 11% であり、前旬に比較すると、のべ隻数は 1 隻増加、総水揚げは 109% でほぼ前旬並みであった。魚種組成の割合はキハダ、メバチ、シロカワ、メバチウウが若干前旬に比べて増加したが、ビンナゴが大減に減少し、他は前旬並みであった。

なお、前年同様の比較は集計の方法が若干変更されたので比較できなかった。



漁種別、漁獲別水揚げ状況 (昭和 60 年 2 月 1 日 ~ 2 月 10 日)

漁種	所属漁協	漁獲量 (kg)	漁種別水揚げ量 (kg)	漁種別水揚げ量 (kg)	前年	前回	
							漁種別水揚げ量 (kg)
定置網	国頭	60	カツオ 17	ナガイユ 0	メアジ 19	ガーラ 24	マグロ 0
定置網	知念	79	カツオ 63	ナガイユ 0	メアジ 1	ガーラ 15	マグロ 0
定置網	与那原	31	カツオ 30	ナガイユ 0	メアジ 1	ガーラ 0	マグロ 0
トビウオ	伊江	256	トビウオ (水)	2	ダツ 250	その他 4	
マグロ	国頭	—	—	—	—	—	
マグロ	知念	—	—	—	—	—	
マグロ	与那原	—	—	—	—	—	
マグロ	八重山	—	—	—	—	—	
マグロ	本島	—	—	—	—	—	
マグロ	伊良部	—	—	—	—	—	
マグロ	池間	—	—	—	—	—	
マグロ	八重山	—	—	—	—	—	
マグロ	フィリップ	85,828	フィリップ	2,010	シロカワ 1,445	その他	
マグロ	シロカワ	14	シロカワ	2,010	シロカワ 1,445	その他	
マグロ	メバチ	—	メバチ	1,178	メバチ 3,631	その他	
マグロ	メバチ	—	メバチ	43,869	メバチ 28,173	その他	
マグロ	メバチ	—	メバチ	3,311	メバチ 28,173	その他	

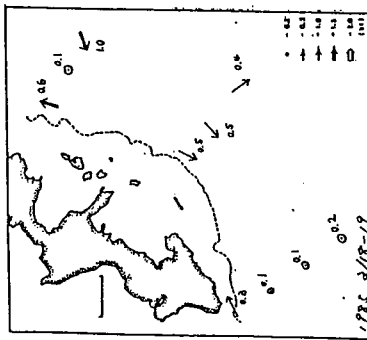
漁海況旬報

(第 115 報)
 (昭和 59 年度 第 35 報)
 (昭和 60 年 3 月 11 日 ~ 3 月 20 日)

S 海況

沖縄近海の表面水温は、21~23℃まで前旬とほぼ同様である。前年同期に比べて、沖縄本島及び宮古島、石垣島間辺界線とも0.1~0.9℃高めている。
 また、平年に比べて、沖縄本島東方海域は-0.2~-0.3℃低め、沖縄本島西方海域及び宮古島、石垣島海域とも0.2~0.8℃高めている。

当水試の観測船くるしおが、3月18日~19日に実施した沖縄沿岸の表面流況観測では、善原沖沖合では0.1~0.3ノットの弱い流れがあり、中城湾沖合部で0.5ノットの南西流れがみられた。また、金武湾沖合では0.6ノットの北東流れがみられた。



県下各地の沿岸水温は、那覇20.4℃、宮古島21.7℃(平年差+0.4℃)、石垣島22.0℃(向+0.3℃)、与那国島24.4℃(向+1.2℃)となっている。

S 漁況

定置網
 国頭地区は、依然休漁中である。知念地区では、回遊性

沖縄県水産試験場

〒 901-03 沖縄県糸城市西崎町1丁目
 TEL 09899-4-3593
 テレファックス 09899-4-8703

魚類の水揚げ量は計11kgと前旬同様低調である。前年同期と比べても低調でわずか10%にすぎない。

与那原地区では、総水揚げ量は800kgで前旬より9名増加した。魚種別には、タチ(タナゴウ)38名、アシナン(トロクイ)32名、白イカ(アオリイカ)7名、ソチヌ(イスズミ)4名、エー(アイコ類)4名、シヤー(ダツ類)3名その他12名であった。

カジキ漁獲

糸満地区ではまだ水揚げはない。与那国地区ではのべ31隻が水揚げし、シロカワ178kg(2尾、最大102kg、最小76kg)、クロカワ3,341kg(29尾、最大178kg、最小53kg)計3,619kgで、前旬比108%であった。

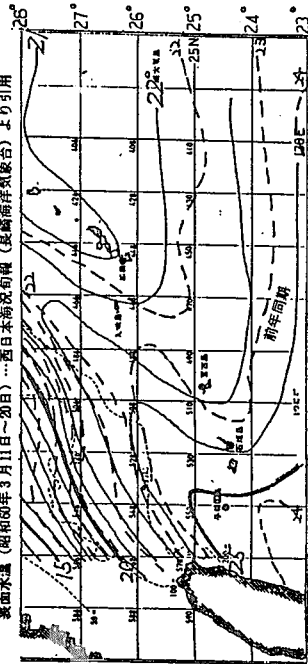
トビウオ浮置網

伊江地区は延べ3隻が水揚げし、総漁獲量84kgで、うちトビウオ(大)6kg(9名)、残りはダツであった。

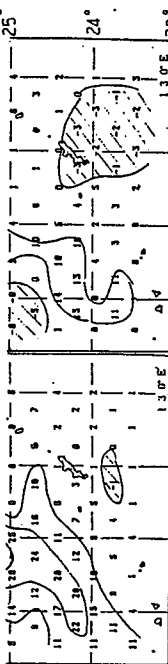
マグロはえ網

県漁港市場に水揚げしたマグロはえ網船は合計17隻で、県内船16隻、県外船1隻で総水揚げ量は116,861kgであった。魚種別には、キハダ59,476kg(51名)、メバチ37,246kg(32名)、メカジキ6,751kg(6名)、ビンナガ5,080kg(4名)、クロカワ1,915kg(2名)、シロカワ2,074kg(2名)で、あとマカジキ、バシヨウはそれぞれ、864kg、347kg、その他のカジキ3,118kgであった。

表面水温 (昭和60年3月11日~20日) ... 西日本海況旬報 (経緯海洋気象台) より引用



前年差



漁獲別、漁船別水揚げ状況 (昭和60年3月11日~3月20日)

集港	定置網	浮網	船名	漁獲量 (kg)	漁獲種別	漁獲量 (kg)	前日	回数
伊江	伊江	伊江	伊江	178	シロカワ	3,441	38	4,100
	伊江	伊江	伊江	6	トビウオ(大)	6	7	970
那覇	那覇	那覇	那覇	800	タチ	38	32	0
	那覇	那覇	那覇	76	メバチ	37,246	32	0
宮古	宮古	宮古	宮古	6,751	メカジキ	6,751	6	0
	宮古	宮古	宮古	5,080	ビンナガ	5,080	4	0
石垣	石垣	石垣	石垣	1,915	クロカワ	1,915	2	0
	石垣	石垣	石垣	2,074	シロカワ	2,074	2	0
知念	知念	知念	知念	864	メカジキ	864	2	0
	知念	知念	知念	347	バシヨウ	347	2	0
伊良部	伊良部	伊良部	伊良部	1,915	クロカワ	1,915	2	0
	伊良部	伊良部	伊良部	2,074	シロカワ	2,074	2	0
糸満	糸満	糸満	糸満	6,751	メカジキ	6,751	6	0
	糸満	糸満	糸満	5,080	ビンナガ	5,080	4	0
与那国	与那国	与那国	与那国	3,118	その他	3,118	16	59,984
	与那国	与那国	与那国	116,861	総計	116,861	16	59,984